

# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.278

2016年7月

第57回名大祭「その躍動、無限大」を開催



## 目次

●ニュース	
第57回名大祭「その躍動、無限大」を開催	3
松尾総長らが中国東北部の協定校を訪問	4
物質・材料研究機構との連携大学院協定を締結	4
自動走行実証実験促進事業に関する協定書を締結	5
熊本地震名古屋大学義援金を中日新聞社会事業団に寄託	5
災害対策本部時間外参集訓練を実施	6
ツーロックキャンペーンを実施	6
平成28年度体育会三大会合同壮行会を開催	7
第53回経営協議会を開催	7
International Symposium on Universal Health Coverage 2016を開催	8
モンゴル科学技術大学教員が本学を訪問	8
キャンパススクリーンを実施	9
●キャンパスクローズアップ	
アジア法交流館	10
●知の先端	
社会インフラの老化を 방지 長寿命化を目指す—コンクリート橋を対象として 中村 光 (大学院工学研究科教授)	12
●知の未来へ	
ADR 利用促進政策をめぐる日欧比較分析 ジョルジオ・ファビオ・コロombo (大学院法学研究科准教授)	14
●部局ニュース	
第25回理学懇話会を開催	15
第26回理学懇話会を開催	15
持続的共発展教育研究センター公開セミナーを開催	16
「省エネルギー社会の実現に資する次世代半導体研究開発」公開シンポジウムを 開催	16
企画展「名古屋のセンパイ！ 大正・昭和編」を開催	17
ICCAE 第2回オープンセミナーを開催	17
第49回地球教室「ナゴヤで化石をさがそう！」を開催	18
第65回 NUMCo を開催	18
第120回防災アカデミーを開催	19
第121回防災アカデミーを開催	19
●受賞者一覧	20
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成28年5月16日～6月15日	26
●イベントカレンダー	29
●表紙サークル紹介	31
●ちょっと名大史	
50年前の名大祭—名大祭いまむかし①—	32

# 第57回名大祭「その躍動、無限大」を開催







- 1 後夜祭フィナーレ  
2 5年ぶりの屋外での盆踊り  
3 ステージ企画（書道パフォーマンス）

第57回名大祭が6月2日(木)午後から6月5日(日)までの4日間、「その躍動、無限大」をテーマに東山キャンパスで開催されました。今年のテーマには、普段研究室やサークルでの活動で蓄え内に秘めたエネルギーを、この名大祭で躍動へと変えて欲しいという思い、そして、その躍動をたくさんの人々に感じてもらいたいという思いが込められています。

本祭開催に先立ち、5月15日(日)にはプレ企画として恒例の「仮装行列」が白川公園と栄周辺で行われ、参加した学部1年生がクラスごとに仮装し、栄の街を練り歩きました。

本祭初日となる2日(木)は、授業の終わった学生が第2グリーンベルトに設置されたステージ付近で足を止める姿が多く見られ、多くの学生が名大祭の開催を全身で感じていました。夜に行われた「当夜祭」のダンスコンテストでは各チームから多様なジャンルのダンスが披露され、初日の夜を盛り上げました。

3日(金)は5年ぶりの晴天となり、学内各所でここ数年とは雰囲気違った賑わいが見られました。特に近隣町内会の方々の協力のもと、第3グリーンベルトにやぐらを組んで行われた「盆踊り」は、本学学生のみならず、

お子様連れのご家族や友達と遊びに来た小学生なども多く見受けられ、学生と地域の方々との交流が盛んに行われる場となりました。

4日(土)、5日(日)は北側メインストリートに飲食物を扱う模擬店が並び、千種保健所の助言を得た厳しい衛生管理体制のもと、34団体の学生等による活気ある呼び込みで大いに賑わいました。

今年度の学術講演企画は休日2日間にあわせて行われ、4日(土)には素粒子宇宙起源研究機構長である益川敏英特別教授と野尻伸一理学研究科教授の2名により、対談形式にて『物理学者の夢見る世界～世界は素粒子で満ちている！～』という題目で講演が行われました。立ち見が出るほどの盛況を見せ、多くの来場者が普段触れることのない物理の世界に触れられる、わかりやすい講演となりました。5日(日)には山岡耕春環境学研究科教授より、『地震のナゼ？ナニ？～いつくるの？南海トラフ地震～』という題目で、今年度発生した熊本地震の話題を絡めた講演が行われました。



その他にも様々な企画が学内各所で行われ、特にメインステージで行われたたよさこいやダンスなどのパフォーマンスは多くの来場者を魅了し、発表者自身も来場者と共に楽しむ姿が見受けられました。また、開催期間中の第1グリーンベルト芝生には全学同窓会支援事業の支援によるLEDイルミネーション装飾が施され、名大祭の夜を彩りました。

最終日となる5日(日)の夜には、第57回名大祭を締めくくる「後夜祭」がメインステージで行われました。冒頭では迫力の和太鼓の演奏が来場者を引き込み、来場者参加型の企画の後、恒例の火舞パフォーマンスが最後の時を盛り上げ、その火が消えるとともに今年の名大祭の幕が閉じました。

今年度は推計8万人の人々が来場し、多くの学生による様々な無限大の躍動を感じられる名大祭となりました。

## 松尾総長らが中国東北部の協定校を訪問

松尾総長及び本学の一行は、5月31日(火)から6月3日(金)までの4日間、中国の東北地方に位置するハルビン工業大学、吉林大学、東北大学、大連理工大学の4大学を訪問しました。これらの大学を訪問中、吉林大学においては本学との共催で日中比較文化シンポジウムが、東北大学においては今回訪問した4大学及び本学との環境学シンポジ



ハルビン工業大学・郭副学長と

ウムが開催され、総長は各シンポジウムの開会式に出席したほか、各大学において学長等への表敬訪問や施設見学等を行いました。吉林大学訪問の際には、総長が名誉教授の称号を授与され、また付属病院(第一医院)では、客員教授の称号を授与されるとともに総長の記念講演が行われました。大連理工大学訪問の際には、日本語強化クラスの学生との交流会で総長が本学を紹介するプレゼンテーションを行ったほか、大学間学術交流協定の調印式が行われました。また、ハルビン工業大学や東北大学、大連理工大学では、本学で学位を取得した卒業生や、研究滞在をしたことのある研究者が総長と懇談する機会もありました。各大学では、総長の訪問に合わせて本学教員による講義(名大巡講)も実施され、本学への留学に興味を持つ学生が多数参加しました。

総長と各学長等との懇談の中では、主としてこれまでの両大学の交流と今後の学生交流や研究者交流について話し合わせ、今回の訪問を契機にこれまで以上に活発に幅広い分野で協力関係を深めていきたいということで意見の一致をみました。今後、各大学からの留学生の増加や活発な共同研究、研究者交流が期待されます。

## 物質・材料研究機構との連携大学院協定を締結

物質・材料研究機構(NIMS)と本学との連携大学院協定調印式を、5月18日(水)、学術総合センターにおいて、文部科学省「省エネルギー社会の実現に資する次世代半導体研究開発」のシンポジウムに先立って執り行いました。

当日は、文部科学省から馳 浩文部科学大臣にもご列席を賜り、橋本和仁 NIMS 理事長と松尾総長が協定書に



調印後の記念撮影

それぞれ署名し、締結に至りました。また、NIMS からは小出康夫理事、長野裕子理事、本学からは國枝理事、松下理事、天野 浩未来材料・システム研究所教授、梅原工学研究科副研究科長が調印式に立会いました。

調印後、橋本理事長からは「NIMS は既に国内32大学と連携大学院を締結しているが、本学は其中でも最重要なパートナーと位置づけ、窒化ガリウムの研究を含め、いろいろな形で研究を進めたい」とあいさつがありました。

また、総長からは、無事に調印に至ったお礼を述べるとともに、「両機関の良いところをあわせて、国際的に競争が激しくなっている研究分野で世界をリードし、産業応用までを責任を持って頑張りたい。そのためにご指導ご鞭撻をいただきたい」との決意表明がありました。

今回の連携大学院制度により、本学の大学院生は、最先端の物質・材料開発環境を有する NIMS において研究指導を受ける事が可能となり、若手研究者育成への貢献、研究機会の拡大が期待されます。まずは工学研究科を中心に本制度の運用を始める予定ですが、その後、材料開発に関連する他の研究科における運用も含め、広範囲な展開を視野に入れています。



## 自動走行実証実験促進事業に関する協定書を締結

未来社会創造機構は、5月31日(火)、あま市七宝焼アートヴィレッジにおいて、あま市、アイサンテクノロジー株式会社、東京海上日動火災保険株式会社との「産官学連携自動走行実証実験促進事業(あま市モデル)に関する協定」の締結式を挙行了しました。締結式には、財満未来社会創造機構長の他、村上浩司あま市長、柳澤哲二アイサンテクノ



締結式の様子(左から川口執行役員、財満機構長、柳澤代表取締役社長、村上あま市長)

ロジー株式会社代表取締役社長、川口伸吾東京海上日動火災保険株式会社執行役員が出席しました。

この協定は、協定を締結した4つの機関が、自動走行の技術開発について、相互に連携し、それぞれが有する人的、物的資源を有効に活用することにより、技術開発を促進させるとともに、地域社会に貢献することを目的とするものです。

締結式では、財満機構長から、協定締結を契機に4機関の連携がさらに加速し、自動走行技術に関する研究開発が促進され、同技術の社会実装の実現、地域社会への貢献へ向けた期待が述べられました。

今後、本学は、「あま市七宝焼アートヴィレッジ」の駐車場を施設の休館日に自走走行実験のためのテストコースとして利用することが可能となります。また、あま市の主催する自動走行の体験試乗会に本学の自動走行技術を提供することで、同技術の認知度の高まり、課題の洗い出し等の効果を期待する事ができます。締結式に先立ち実際に自動走行技術の研究を行っている二宮芳樹未来社会創造機構特任教授らがテストコースの視察を行い、テストコースの形状、利用方法等について、あま市の担当者から説明を受け、今後の利用方法等について検討を行いました。

## 熊本地震名古屋大学義援金を中日新聞社会事業団に寄託

本学は、5月30日(月)、熊本地震の復興支援として全学から寄せられた360万円の義援金を、被災各県の災害対策本部に届けていただくよう、社会福祉法人中日新聞社会事業団に寄託しました。

4月14日(木)、4月16日(土)に熊本地方を襲った地震及びその関連する余震は、連日その地方に大きな被害を与



義援金を中日新聞社会事業団に届ける木村理事

え、被災者の方々は生活に大変苦労されています。

この状況に対して本学は、4月16日(土)に熊本地震対策本部(本部長/松尾総長)を設置し、被災された方々の一日も早い復旧に向けた支援活動に役立てていただくことを目的に、教職員・学生などに義援金を募ったところ、全学から多くの善意が寄せられました。

そして5月30日(月)、本学を代表し、木村理事により社会福祉法人中日新聞社会事業団に「一日も早い復興への願いとともに現地に届けてほしい」と目録が手渡されました。

皆様の御協力ありがとうございました。

## 災害対策本部時間外参集訓練を実施

5月17日(火)、本学で初めての災害対策本部時間外参集訓練を実施しました。熊本地震の例でもわかるように、地震はいつ起こるかわかりません。夜間や休日にも起こることもあります。そのような時は、職員、役員のほとんどは大学にいません。一方、研究室では研究が継続され、実験中に被災している場合も想定できます。さらに地震後はライ



災害情報の白板を前に対策を検討

フラインが途絶していることが想定されます。そのような時でも、大学を運営する職員、役員が大学に駆けつけて、地震時の災害対応を開始することが求められます。

本学の災害時の拠点となる災害対策本部は減災館2階に設置されます。減災館は、免震構造で地震時の建物被害が軽減されるほか、災害時の非常電源やネットワークなどが整備されており、地震時にも大学を守り、さらに大学として社会への発信も担う機能が期待されています。

当日の午前6時に南海トラフの巨大地震が発生したことを想定し、災害対策本部員と本部事務局、全学自衛消防隊班長は、午前6時30分に自宅を出て、公共交通機関や車を使わずに参集しました。そして、午前6時45分には最初に参集した数名で災害対策本部を開設しました。災害対策本部では、地震が発生した場合、まず大学として何から始めるべきかということから検討を開始し、様々な災害時の被害についてその対策の検討と、指示事項をまとめるという訓練を実施し、講評も含めて8時15分に終了しました。

この訓練には、参集対象者46名のうち27名が参集でき、災害時初期の対応力が確認できたほか地震時の様々な課題について参加者の認識を深めることができました。

## ツーロックキャンペーンを実施

6月13日(月)、駐輪自転車の盗難防止のため、自転車に2つの鍵を掛けるよう呼びかけるツーロックキャンペーンを東山キャンパスで実施しました。

これは、5月26日が名古屋市で実施する「自転車盗難防止ツーロックの日」であることを踏まえ、本学における自転車の盗難防止への関心を高め、ツーロック実施を呼びか



ポッカレモン消防音楽隊とカラーガード隊リリーエンゼルス

けるために千種区役所、千種消防署及び見付学区連絡協議会の協賛を得て、本学の主催で実施したもので、平成26年度に続き、今回で2回目の実施となります。

当日は、時折霧雨が降る生憎の天気でしたが、豊田講堂ピロティで小松施設管理部長をはじめとする関係者のあいさつの後、ポッカレモン消防音楽隊によるマーチング演奏と、それに合わせてカラーガード隊リリーエンゼルの演技が行なわれました。集まった観客数十名は「ハローファイアマン」をはじめとする音楽隊の演奏を楽しんだ後、ワイヤーロックの無料配布を受けたり、駆け付けた千種区のマスコットキャラ「こあらっち」との記念撮影を楽しみました。演技の終了後は経済学部前をはじめとする各自転車置き場に駐輪されている自転車に、ツーロックの実施を呼びかける絵符(えふ)を取り付けたり、自転車に乗って通行する学生らにワイヤーロックを配布したりするなどしてツーロックを呼びかけました。構内での自転車盗難防止を呼びかけるため、今後も関係機関と協力し、このような催しを継続して行います。



## 平成28年度体育会三大会合同壮行会を開催

本学体育会主催の平成28年度体育会三大会合同壮行会が、5月19日(木)、豊田講堂において開催されました。

三大会とは、全国七大学総合体育大会(通称：七大戦、七帝戦)、名古屋大学・大阪大学対抗競技大会(通称：名阪戦)及び東海地区国立大学体育大会(通称：東国体)をいい、主に5月から7月にかけて開催されます。壮行会に



体育会運動部各代表者からのあいさつ

はこれらの大会に競技の無い運動部も出席しました。

当日は、体育会会長である松尾総長及び体育会副会長である國枝理事をはじめ、体育会幹部学生、体育会加盟53運動部の代表者、運動部長が出席しました。

総長及び國枝理事からは、各運動部の今期の活躍を期して、特に来年度は全国七大学総合体育大会が本学主管で開催されるため、近年の低迷状態からの脱却と大いなる躍進を期して、熱いメッセージが贈られました。続いて、体育会委員長及び各運動部の代表者からは、各々の今期に向けた抱負等が述べられ、互いの成長と活躍を誓い合いました。

## 第53回経営協議会を開催

第53回経営協議会が、6月10日(金)、鶴舞地区の鶴友会館において開催されました。

会議では、松尾総長からあいさつの後、平成27年度学部卒業生・大学院修了者等の進路状況、平成28年度学部・大学院入学試験状況、大学院の収容定員の充足率、外部資金の受入状況等、名古屋大学基金、平成28年度会計監査人の

選任について総長、各担当理事及び副総長から報告が行われました。

次いで、人事関係諸制度の見直し、第2期中期目標期間評価、平成27事業年度決算、平成29年度概算要求、医学系研究科とルンド大学医学部との国際連携総合医学専攻の設置について説明が行われ、審議の結果、了承されました。



会議の様子

## International Symposium on Universal Health Coverage 2016を 開催

ラオス保健省と本学の共催によるユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）に関する国際シンポジウムが、6月13日（月）、14日（火）の両日、ラオスの首都ビエンチャンにおいて開催されました。UHCとはすべての人が必要とする標準的な保健サービスを経済的な困難なく受けられることを意味し、各国政府、国際支援機関はその実現のための努



シンポジウムの様子

力を続けています。

このシンポジウムには、ラオスのUHCを支える多くの国際機関が参加し、うち9団体（ADB、ILO、JICA、Lux-Dev、SRC、UNICEF、UNFPA、WB、WHO）には技術支援及び財政援助を頂きました。参加者はラオス保健省、各県の保健担当者、国際支援機関、カンボジア、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、タイ、中国、韓国の代表者で、日本からは17名が参加し、参加者数は全体で200名になりました。

開会ではソム・オク・キングサダ ラオス副保健大臣、松尾総長、ジュリエット・フライシュル WHO ラオス代表、山谷裕幸厚生労働省大臣官房国際課国際協力室長があいさつを行いました。特別講演では、ソミル・ナパル世界銀行シニア・ヘルス・スペシャリストがUHCの総論を述べ、濱嶋信之医学系研究科教授が日本の保健システムを紹介しました。セッション1から3はASEANと中国、韓国のUHC、セッション4は日本のUHC、セッション5から7はラオスに関するUHCが議論されました。その後、フレデリカ・メイジャー UNFAP ラオス代表、引原 毅在ラオス日本国特命全権大使、高橋雅英医学系研究科長、ポウソン・ムオンバック ラオス副保健大臣のあいさつで閉会しました。

## モンゴル科学技術大学教員が本学を訪問

賛光精機株式会社の招へいにより、モンゴル科学技術大学の教員等22名が、5月18日（水）、本学を訪問しました。

松尾総長、天野 浩未来材料・システム研究所教授が、3月27日（日）から30日（水）の4日間、モンゴルを訪問した際に、賛光精機株式会社の関連会社であるサンコウ ソーラー モンゴリアとサンコウ テック モンゴリアを見学した



豊田講堂前にて集合写真

ことを機に、今回の訪問となりました。

賛光精機株式会社は、日本とモンゴルの学術交流支援を行っており、2011年から現在まで5年間、「日本の大学を見て学ぶ」をモットーに、毎年、モンゴル科学技術大学の教員20名程度を日本に招へいしています。

今回の訪問には、賛光精機株式会社の清水崇司会長も同行し、表敬訪問の際、渡辺理事から清水会長へ、3月末の総長、天野教授の訪問についてお礼が述べられました。その後、戸田山教養教育院長から、本学のカリキュラムとその改善について説明の上、意見交換を行いました。引き続き、博物館において開催中の特別展「モンゴル大百科」及びノーベル賞展示を見学しました。モンゴル科学技術大学と本学は、地質石油工学部との交流やフィールドリサーチセンターの設置等で協力関係を築いていますが、今回は、他の分野の教員との交流が深まる機会となりました。



## キャンパスクリーンを実施

大学構内環境美化運動「キャンパスクリーンウィーク」が、名大祭終了後の6月6日(月)から10日(金)の間実施されました。

これは、環境保全に対する関心を高めるために平成元年から実施されており、全学の教職員及び学生の協力を得て、例年、環境月間である6月と、12月の年2回行っています。



構内だけでなく外周の清掃をする職員

ます。

事務局では8日(水)午後、前日まで降り続いた雨が上がり時折薄日が差す蒸し暑い陽気の中、竹下事務局長をはじめ、各部課長・職員等約150名が、東山キャンパス構内の各所に分かれて、空き缶・紙くず等を拾うなど、清掃を行いました。

参加者は湿度が高く蒸し暑い中、汗を拭いながら様々な種類のごみを用意された袋へ集めました。

また、名古屋市構成員として市内や近隣学区の環境美化にも貢献するため、大学構内だけでなく付設する市道や本学の外周についても併せて清掃を行いました。

本学では、年2回のキャンパスクリーン(屋外清掃)を実施することにより、今後も「ゴミのないきれいなキャンパス」を目指していきます。

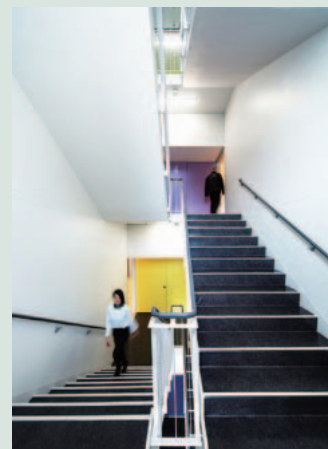
## 50. アジア法交流館



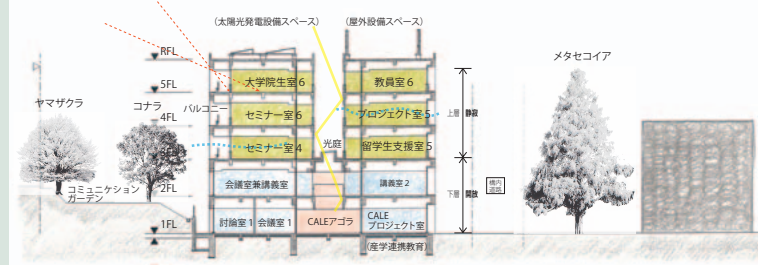
法政国際教育協力研究センター（CALE）は、2002年の設立以来、大学院法学研究科と共にアジア諸国の立法支援、法運用支援、法曹養成支援、法学教育支援を展開してきた一方、分散化・狭隘化が課題となっていました。この度、「アジア法情報交流の拠点としての広場“AGORA”」をコンセプトに掲げた「アジア法交流館」が2016年3月に開所式を迎えました。

■配置計画：敷地の高低差を活用し、北側に主出

入口、構内道路レベルより高い南側の2階レベルに副出入口を設け、立体的な動線計画としました。多くの来訪者が北東側からアプローチすることから、ホールのボリュームを2階レベルに持ち上げ、アイストップとしました。逆に、1階のアジア法資料室をセットバックさせ、来訪者を迎える軒下空間とした上、記憶の継承として、かつて敷地にあった日本庭園の石を用い、ベンチとして活用しました。







■**平面・断面計画**：古代の AGORA を想起させる開放的な街路状の構成を持つ CALE アゴラを1階中央に設け、交流を活性化する広場としました。上部の3階以上は光庭を挟んだ複廊下型として、明快で明るい移動空間としました。1・2階には公共性の高い機能を、3階以上には静寂性を要する教育・研究機能を配置しました。

■**諸室計画**：アジア法資料室は、図書室機能に加え、アジア各国の展示機能や情報交流の場となります。名古屋大学で初めての茶室「白蓮庵」は、寄附により設けられ、各国の来訪者が日本の伝統文化を体験できる空間となります。

- ・各階の識別、色彩自体の意味と室機能の関係づけ、伝統文化の紹介を意図して、日本の伝統色をアクセントカラーとして導入しました。日本の職人が持つ手業の技術を紹介するため、公共性の高い室に、鍛造による金属（真鍮、鉄）の素材感を活かした手摺を用いました。
- ・来訪者間の交流のきっかけとして、衝突防止フィルムはアジア各国を代表する建物をモチーフとした図柄としました。

■**設備計画**：ZEB（ゼブ：ゼロ・エネルギー・ビル）を目指して、基準建物と比較して一次エネルギー消費量を60%超削減できる建物としました（施工完了時の試算）。またこれに対して、屋上と南側バルコニーに太陽光発電設備を設置することにより、ZEB ready レベルⅡ\*の評価となります。1階にはエネルギー管理モニターを設け、エネルギーの見える化をおこなっています。また、ホール、CALE アゴラの照明器具は、昼白色・温白色・電球色の色温度に変更可能で、場面に応じて演出できます。

■**コミュニケーションガーデン**：世界から訪れる留学生・研究者の憩いの庭として、一部樹木の寄附を受けました。東部丘陵地に位置する敷地にお

いて、ヒマラヤスギ、ケヤキ、クスノキ、シラカシといった既存の高木を保存し、さらにその前面に、中木や株立ちを設け、明るく軽やかな空間としました。アイストップとなる部分には、春にはボタン、サクラ、秋には紅葉するイロハモミジ、ハナミズキ等、四季折々の樹木や灌木を配し、季節感を演出しています。マウンドによる奥行き感の演出、土と石灰を混合したカルサンド舗装、土留めやエントランスの一部に用いた岐阜石、既存石を活用したベンチや燈籠など、場所の記憶と交流空間としての演出を図っています。

■**コミッションングの導入**：発注者・使用者の目標を達成するためのFM（ファシリティ・マネジメント）・EM（エネルギー・マネジメント）手法として、企画・設計・施工の各段階において性能検証を行いました。今後は運用段階の性能検証を行い、教育・研究のさらなる発展に貢献します。  
（協坂圭一／元・施設・環境計画推進室  
高取千佳・奥宮正哉／環境学研究所）

\* 公益社団法人空気調和・衛生工学会：ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の定義と評価方法、2015年6月

$$\frac{1}{\frac{2}{4} \frac{3}{5}} \frac{7}{8} \frac{1}{6}$$

- 1 北側アプローチより建物全景を見る。柱梁のグリッドによるボリュームと2階レベルで突出させたホールのボリュームからなる。向かいの法学部前には遊歩道、ベンチ、机、自転車置き場からなる環境整備を行った。
- 2 200人規模の国際会議も開催可能なカンファレンスホール。壁面の合板は日本の伝統色である絹色の拭き取り仕上げ。
- 3 CALE アゴラは南北の諸室に挟まれた街路状の交流空間となる。トップライトから光が差し込み、明るく開放的な空間。
- 4 アジア法資料室ではアジア諸国との交流の品々の展示や情報掲示板が来訪者を迎える。閲覧機の天板に展示ボックスを仕組んだ。
- 5 15畳の広間。東に4畳半の小間と水屋が隣接する。聚楽壁塗り廻し、美濃和紙を用いた。株式会社東海メディカルプロダクツの筒井会長・副会長の寄附による。
- 6 各階のアクセントカラーとして、1階に桜色、2階に花浅葱、3階にレモン色、4階に藤色、5階に豌豆緑、ベース色に銀鼠を用いた。
- 7 建物南側に広がるコミュニケーションガーデンは隣接する住宅地との緩衝空間としても機能する。奥にかつて日本庭園にあった石と灯籠が見える。
- 8 南北断面図。北側1階主出入口、南側2階にガーデンからの副出入口を設けた。中央の光庭からトップライト越しにCALE アゴラに光が差し込む。屋上に太陽光パネルを設置。

# 社会インフラの老朽化を防ぎ長寿命化を目指す ーコンクリート橋を対象として

中村 光 大学院工学研究科教授

最近、道路や鉄道、河川や港湾施設、上下水道などをはじめとした社会インフラの高齢化や老朽化がよく話題になります。数年前に起きた高速道路のトンネル天井板落下事故でも、その発生原因の一つとして経年的な問題が指摘されています。社会インフラのうち、道路橋は道路ネットワークを構築し、人や物の移動の核となる構造物ですので、日常の社会生活や経済活動に果たしている役割はきわめて大きいものです。全国の道路橋数は、長さが2m以上は約70万橋、15m以上は約16万橋あります。その多くが高度経済成長期に建設されているため、2020年代半ばにはほとんどの地域で半数以上が建設後50年以上になります。50年を超えても健全な状態の橋はたくさんありま

すので、橋の高齢化が老朽化とならないように、様々な取組みが求められています。

専攻内に橋梁長寿命化推進室を設置し組織的に行っている取組みが、学内に2010年に構築した劣化橋梁モデル N<sup>2</sup>U-BRIDGE を利用した点検技術に関する研究と技術者育成です。劣化橋梁モデルは、塩害・中性化による鋼材腐食、アルカリ骨材反応、疲労などの劣化損傷が生じ撤去された実際に使われていた橋を名古屋大学に移設し再構築した施設です。これらの中には日本最古の歩道橋も含まれています。また、劣化した橋の付属物や劣化部位、打音検査やコンクリート内の鉄筋探査ができる非破壊検査用のパネル、コンクリートの初期欠陥を再現したパネルも設置されています。私

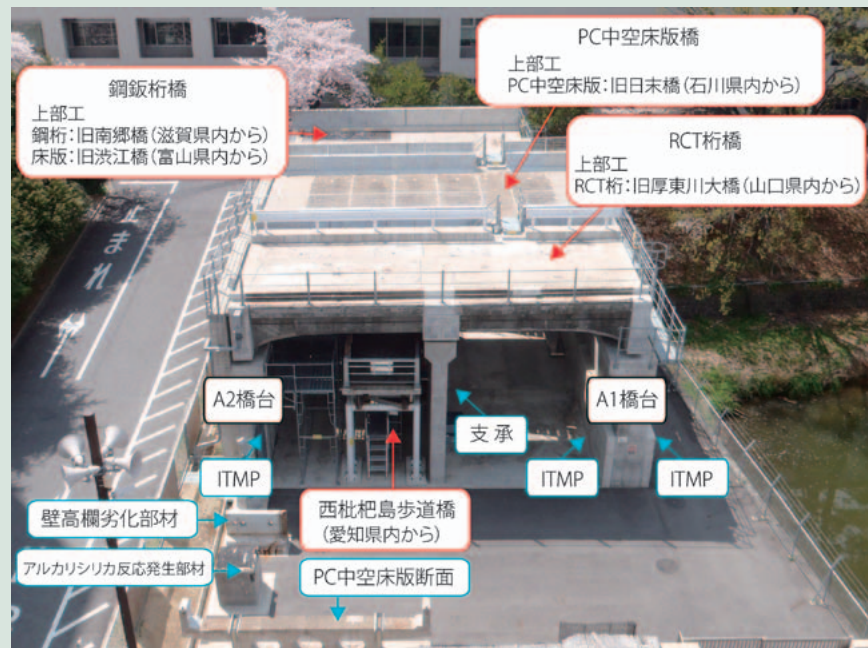


図1 ニュー・ブリッジの全景



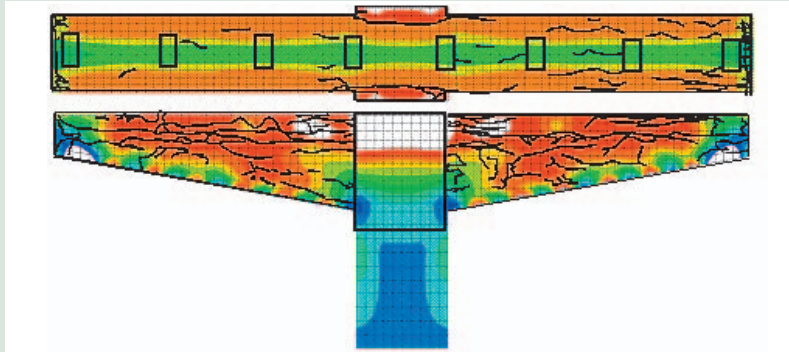


図2 アルカリ骨材反応による橋脚の劣化損傷の評価解析結果。黒線は実橋脚で観察されたひび割れ。コンターは解析結果で、赤色ほど大きな劣化損傷が発生すると予測された箇所。

の研究室ではこの施設を利用して、ドローンを使った橋の点検方法や、コンクリート内のひび割れや空洞を探索する非破壊検査技術の開発を進めています。一方、技術者育成については、レベルの異なる幾つかの研修コースを実施しています。このうち、機器を使用した点検実務、点検調書の作成および劣化機構の推定について学ぶことができる検査点検コースでは、橋梁点検士の認定試験も行っています。国土交通省では、社会資本の維持管理及び更新を確実に実施することを目的に民間資格の登録制度を創設し、登録された資格の積極的な活用を促しています。橋梁点検士は、2015年度に橋梁（コンクリート橋）および橋梁（鋼橋）の点検業務に登録されましたので、育成した技術者の活躍が期待されます。

コンクリート構造物は、骨材・セメント・水を材料としたコンクリートと鋼材を組み合わせたもので、使用材料に関して様々な種類の劣化が生じます。例えば、アルカリ骨材反応は、骨材がある条件下で膨張し、コンクリートの強度低下やひび割れを生じさせます。鋼材腐食は、コンクリー

ト内の鋼材の体積膨張によりコンクリートにひび割れや剥離を発生させます。これらの劣化の評価は、材料レベルだけでなく、ある使用環境下の構造物中での劣化進行や、構造物の性能に与える影響を評価する必要があります。さらに構造物は、長期にわたり使われるため、長期的な劣化進行の予測も求められます。そのため私の研究室では、各種劣化現象に対し、その劣化進行と変状の発生や構造性能の変化を予測する数値解析手法の開発も行っています。一例として、図2は高速道路の橋脚上部の張り出し部材に生じたアルカリ骨材反応によるひび割れの予測解析を行ったものです。変状が顕在する箇所は、コンクリート内の鉄筋配置、応力状態、劣化因子の分布など様々な要因が関係しますので、各種要因の空間的あるいは時間的影響を考慮した予測手法が求められています。

社会インフラは全ての人の生活や経済活動に密接に関わっています。現在に生きる私たちだけでなく、次世代、次々世代以降が安全で安心、活力ある暮らしをするために、社会インフラの維持管理を適切に行っていくことがこれから益々重要になります。

1964年岡崎市生まれ、1992年名古屋大学大学院博士課程後期課程  
 土木工学専攻修了（博士（工学））、山梨大学講師、助教教授、名古屋  
 大学助教授を経て2004年から名古屋大学教授。橋梁長寿命化推  
 進室室長。  
 専門は、コンクリート構造学、維持管理工学、耐震工学で、コンク  
 リート構造物の耐力や破壊時挙動の観点から、安全性や耐久性の問  
 題に取り組んでいます。  
 趣味は、引き猫収集で日本招猫倶楽部会員。

なかむら ひかる



大学院法学研究科准教授  
 ジョルジオ・ファビオ・コロンボ

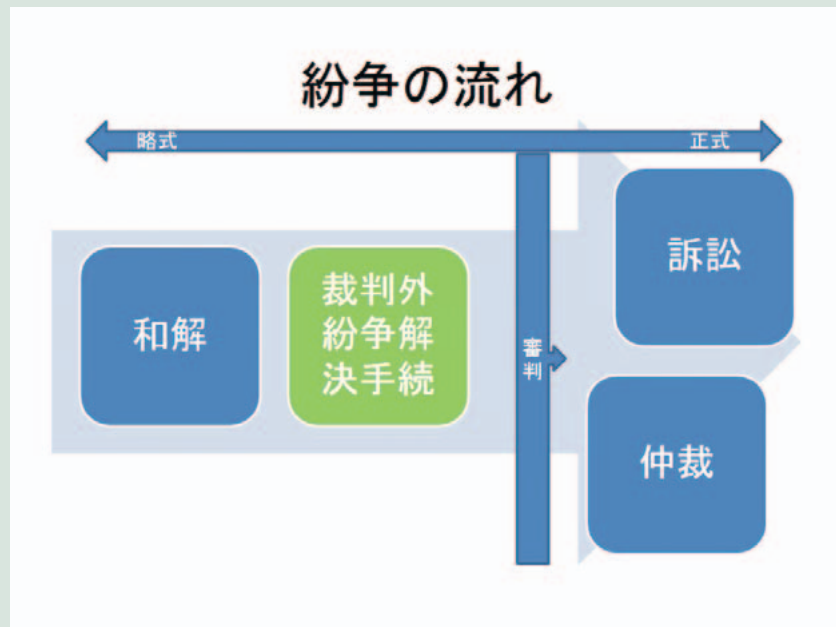
## ADR利用促進政策をめぐる日欧比較分析

日本やEU諸国を含む先進諸国では、国家が運営する司法システムの負担を軽減するため、私的に運営される裁判外紛争解決（ADR）の利用が奨励されています。ヨーロッパと日本は、共にこの問題に取り組みつつも、若干異なるアプローチを採っています。私の本研究の目的は、民商事事件における調停に関する指令（2008/52/EC）後のEUと、裁判外紛争解決手続の利用の促進に関する法律（平成16年12月1日法律第151号）後の日本とを比較検討することでした。これらの新立法の下、EU及び日本は、私的に構成・運営され基本的に市場に依拠した紛争解決センターのための法的枠組を提供しました。この立法の背後にある基本的な考え方は、市民に簡便で効率のよい紛争解決システムを提供することです。また、システムにとって一般的な便益もあります。すなわち、司法システムの外で多くの紛争が処理されるということは、国家にとって紛争処理コストの削減になり、また裁判官の負担を軽減することにもなるので、全体として円滑でより良い紛争マネジメントを行うことに繋がるのです。

私の研究は、両者の間の注目すべき差異を明らかにしました。広く一般化すれば、ヨーロッパが、

国毎の違いはあるとはいえ私的なADRの運営に成功したのに対し、日本は上手くいっていないと言え得るということです。

本研究は、期待されていた成果を挙げる事ができました。本研究では、EU及び日本に於けるADRの成功の差の背後にある主要な原因を十分に特定しました。とりわけ、私的に運用されつつ国家に監督されるADRが発展するか（或いは、発展しないか）についての明確なパターンを特定しました。EUでは立法的手段（例えば、合意の執行可能性、軽減税率等）及び非立法的手段（例えば、ADRに関する教育活動、国家とADRサービス提供者との間の制度的協力等）を通じてADRが強力に推進されている一方、日本は、とりわけ立法的措置が関わる場合には、より注意深い政策を採っているといえます。2015年の最新の展開では、日本は私的に運営されるADRを強化することに関心を示していないことが確認され、また法制度の改正に関わる議論にもその方針が反映されています。過去2年間の研究の（部分的な）成果としては、4本の論文の公開、及び14回の学会報告・セミナー・招待講演が挙げられます。



このフローチャートは紛争の流れ図になります。和解から訴訟までの流れを明らかにしています。



## 第25回理学懇話会を開催

●大学院理学研究科

大学院理学研究科は、5月19日(木)、理学南館坂田・平田ホールにおいて、第25回理学懇話会を開催しました。同研究科広報委員会では、同研究科で行われている最先端の科学研究を広く一般の方に興味を持ってもらうことを目的に、広報誌「理フィロソフィア」を半年に1度の頻度で発行するとともに、理学懇話会を開催しています。第25回と



懇話会の様子

なる今回は、節目となる第30号の「理フィロソフィア」の発行を記念して開催されました。

今回の理学懇話会「謎の素粒子ニュートリノ」では、伊藤好孝宇宙地球環境研究所教授が「ニュートリノ振動発見の光跡をたどる」という題目で、東京大学の梶田隆章教授らが2015年のノーベル物理学賞を受賞したことで話題となったニュートリノ振動に関する講演を行いました。平日16時からの開演にもかかわらず、学内外から104名もの参加者が集まったことからニュートリノ研究の話題性の高さをうかがうことができます。講演は、素粒子物理学やニュートリノ振動現象の基礎知識、カミオカンデ実験とその後継のスーパーカミオカンデ実験においてニュートリノ振動が発見されるに至った経緯、世界中のニュートリノ振動実験の動向など、これまでニュートリノ振動実験を主導してきた伊藤教授ならではの臨場感ある興味深い内容でした。講演の最後は、本学の素粒子理論と素粒子実験がニュートリノ振動の発見に大きく貢献してきたことを示して締めくくられました。講演後には、伊藤教授を囲んで、第30号「理フィロソフィア」の発行を記念した祝賀会を開催しました。

## 第26回理学懇話会を開催

●大学院理学研究科

大学院理学研究科は、6月4日(土)、理学南館坂田・平田ホールにおいて、第26回理学懇話会を開催しました。

第26回理学懇話会は、「光をあやつる化学」をテーマとして、山口茂弘トランスフォーマティブ生命分子研究所教授と、菱川明栄物質科学国際研究センター教授が講師となり、山口教授は「分子の光が拓く未来」、菱川教授は「分



講演する山口教授

子を照らすフェムト秒の光」のタイトルで、光を共通テーマとする最先端の蛍光分子開発と、極短パルスレーザーと分子の相互作用に関して講演を行いました。山口教授は、分子の蛍光の原理から、超耐光性を示す新規化合物の開発、さらに、明るい会場でも十分に見える非常に強い蛍光を発する新規分子のデモンストレーションなど、基礎から応用、そして、知的好奇心に突き動かされる分子開発まで、分かり易く紹介しました。菱川教授は、極短パルスレーザーを如何にして作り出すのか、そして、極短レーザーパルスと分子の相互作用を利用する「クーロン爆発イメージング」について、その原理から検出法まで、花火の火薬の配置と夜空で開く花火の見え方の関連を例に挙げながら、最先端の研究を分かり易く説明しました。講演終了後には、活発な質疑応答が繰り広げられ、聴衆の「光と分子に関連する研究」に対する関心の高さがうかがえました。

## 持続的共発展教育研究センター公開セミナーを開催

●大学院環境学研究科

大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センターは、5月16日(月)、ES総合館ESホールにおいて、公開セミナー「公共交通不便地域で『くらしの足』を地域自ら確保する方法」を国土交通省中部運輸局の共催で開催しました。超高齢化への対応策として、バス・タクシー等の地域公共交通確保に対する関心が高い現状を反映し、定員を



作戦会議の様子

大幅に超える340名以上の参加があり、中継映像を流すサテライト会場もぎっしり埋まるほどでした。

午前は、自治体職員や交通事業者を対象に、中部運輸局による現状や制度に関する説明、地域公共交通確保策の現場に携わり、国の法律改正にも関与する加藤博和環境学研究科准教授による特別講義「地域公共交通政策の考え方・進め方入門」、そして、高野雅夫環境学研究科教授による、センターが実地域における社会貢献と教育・研究の一体的活動として取り組んでいる臨床環境学及びコンサルティングファームについての紹介が行われました。

午後は、地域の現場で公共交通確保に取り組みたいと考える方々を対象に、加藤准教授による講演「『くらしの足』をあきらめないで！自分たちで『つくり』『守り』『育てる』方法はあります！」の後、全国5地域における事例が当事者自身によって紹介されました。さらに豊田都市交通研究所の福本雅之主任研究員のコーディネートにより「作戦会議」と称したパネル討論が行われ、実践に直結する白熱した議論が展開されました。終了後会場を移して行われた懇親会にも約150名が参加し、活発な情報交換が行われました。

## 「省エネルギー社会の実現に資する次世代半導体研究開発」公開シンポジウムを開催

●未来材料・システム研究所

文部科学省主催の公開シンポジウム「省エネルギー社会の実現に資する次世代半導体研究開発～青からパワーへ未来への挑戦～」が、5月18日(水)、学術総合センター一橋講堂において開催されました。このシンポジウムは、今年度から採択された文部科学省の事業「省エネルギー社会の実現に資する次世代半導体研究開発」のキックオフシン

ポジウムとして開催されたものです。

本事業は、天野 浩未来材料・システム研究所教授らが研究代表者となり、本学を中核拠点として、窒化ガリウム(GaN)等を材料とした次世代半導体の早期実用化に向け、産学官が連携して研究を加速する取り組みです。

シンポジウムでは、馳 浩文部科学大臣のあいさつ、来賓からのあいさつに続いて、谷口研二プログラムディレクターから事業趣旨説明、天野教授から研究計画の説明がなされました。

その後、谷口プログラムディレクター、天野教授に加え、本事業のプログラムオフィサーや、企業の技術担当者等を含めた8名によるパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、「GaN等の次世代半導体の実用化に向けて」のテーマのもとで、研究開発における課題、窒化ガリウム研究開発における期待、そして研究開発のあり方などについて活発な議論が行われ、会場からの質問にパネリストも答えるなど、盛会のうちに終了しました。

今後は、産学官一体となり、省エネルギー社会の実現に向け研究開発を推進していきます。



公開シンポジウムの様子



## 企画展「名古屋のセンパイ! 大正・昭和編」を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、2月10日(水)から5月31日(火)までの間、企画展「名古屋のセンパイ! 大正・昭和編」を開催しました。これは、本学全学同窓会による大学支援事業の助成金により収集した「名古屋大学の大先輩」コレクションを展示公開するものです。

今回の展示は、大正・昭和時代、愛知県立医学専門学校・



展示会の様子

愛知病院から、旧制第八高等学校、そして名古屋帝国大学までの本学の前身校に在学、在職した著名人に関連する図書、文書、写真、絵葉書、地図等の史料を明治編に続いて展示公開しました。

郁 達夫の『沈淪』は、八高時代の自伝的小説で、当時の中国人留学生の孤独と性を描き、中国の近代文学で性の問題を真正面から取り上げた最初の商品として評価されています。

県立愛知医科大学の泌尿器科学教授太田正雄は、詩人木下空太郎としても知られています。『支那南北記』は在職中に刊行された紀行文です。「勤勉八高」、「教練八高」と呼ばれる独自の校風を確立した初代校長大島義脩の絵葉書、1945年3月の空襲により建物を焼失した名古屋帝国大学が一時期借用していた愛知県昭和塾堂の小冊子と絵葉書など、多彩な資料は多くの来館者の関心を集めました。

また、会期中の3月15日(火)には、高橋 昭本学名誉教授を招き「愛知医学校長 後藤新平」と題する特別講演会を開催しました。衛生の道を拓き、雄大な先駆的視野に立って辣腕をふるった後藤新平の名古屋時代を中心とする講演は、市民ら60名の知的好奇心を大いに刺激しました。

## ICCAE 第2回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センター(ICCAE)は、6月5日(日)、IB電子情報館011講義室において、第57回名大祭研究公開セミナーを兼ねた2016年度第2回オープンセミナーを開催しました。今回のセミナーでは、ICCAEの元研究員で、現在、信州大学農学部国際農学教育研究センターの副センター長を務める浜野 充講師が「開発途上国



第2回オープンセミナーで講演する浜野講師

の農村における課題解決を目指した実践的研究-カンボジアの米蒸留酒の品質向上-」と題する講演を行いました。浜野講師は、10年以上にわたりカンボジアにおける国際協力と研究活動に取り組んできた経験に基づき、国際協力の実務と課題解決を導くアクションリサーチ手法について、一般の来場者にも分かりやすく解説を行いました。カンボジアの農村で伝統的に営まれている米蒸留酒造では、酒造工程、使用原材料などに問題があり、酒の品質が低いため薄利で赤字経営に陥る農家が多く存在します。講演では、これらの課題を抱える人々と共に経営・技術の課題の要因を見出し、改善の実践を繰り返すことで、課題解決を導いてきた実践的研究の実例が紹介されました。また、大学の国際化やグローバル人材の育成についても、外国人選手と日本人選手の相乗効果で活躍したラグビー日本代表チームの例も交えて、多様な人材が集まることにより活動生産性が高まることを示しました。講演後には、国際協力やカンボジアの農業と開発に関心を持つ多数の参加者との間で活発な質疑応答が行われ、盛況なセミナーとなりました。

## 第49回地球教室「ナゴヤで化石をさがそう!」を開催

●博物館

博物館は、5月21日(土)、22日(日)の2日間、第49回フィールドセミナー「地球教室」を開催しました。地球教室は、博物館が2005年から毎年4回開催している長期的な地域貢献活動です。今回は、小中学生や一般の方29名が参加し、名古屋市内の建築物の石材に含まれる化石の見学を行いました。1日目は、博物館の実験室において岩石や化



建材として利用された石灰岩に含まれる化石を観察する参加者の様子(名古屋駅)

石の種類、化石になった古代の生き物に関する講義を行いました。また、建材としてカットされた岩石の表面に化石がどのように表れるかを知るために、現生の貝殻を切断してできた断面を観察し、それを用いたスタンプ作りをしました。この予習を踏まえ、2日目は名古屋駅と栄周辺に出かけ、壁や柱に用いられている石材から、アンモナイトやサンゴ、ウミユリなどさまざまな化石を発見・観察する体験をスタンプラリー形式で行いました。通勤や買い物など普段の生活でみなれた場所にも、意外な自然が隠されていたことに参加者は驚きながら、大変興味深く化石を観察していました。この事業は名古屋市科学館との協定事業で、愛知大学名古屋一般教育研究室内の援助を受けています。

## 第65回 NUMC<sub>o</sub> を開催

●博物館

博物館は、5月21日(土)、同館展示室において第65回 NUMC<sub>o</sub>「モンゴルの心 馬頭琴」を開催しました。今回は、サランモルによる馬頭琴と歌の演奏です。

モンゴル人ダゴラによる歌は、大地を駆け抜けるようなその声とともにどこか日本の民謡にも通じるような懐かしさを感じるものでした。また馬頭琴の素朴な音もホッとさ



サランモルによるコンサート風景

せるところがあり、日本人に好まれる音色なのかもしれません。「ユロル 広い草原、走る馬、草原の太陽」など全11曲の演奏は、途中、国語の教科書で馴染みのある「スーホーの白い馬」の語りもありました。さらに、全員で合唱した「花は咲く」は、熊本の震災の応援ソングとして会場の気持ちが1つになりました。今回はコンサートの後も質問が絶えず、モンゴルの民族衣装を着たり、馬頭琴の楽器の説明を受けたり、馬頭琴の弾き方を教えてもらったり、310名の聴衆は、随分楽しい時間を演奏者と共に過ごしました。

会場である博物館は1964年に建築された(設計: 谷口吉郎)建物で、今年で52年を迎えます。最初は図書館として設計されましたが、役目を終えた後は資料館等を経て2000年から博物館として使用しています。演奏会場となる展示室は、吹き抜けによる大きな空間と印象的な折板屋根が、良い響きと適度な残響を作り、毎回演奏者にもコンサート向きとの好評をいただいております。今年度は、12月にフルート、2月にミュージックベル、3月にフォルクローレを予定しております。



## 第120回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは5月17日(火)、減災館1階減災ホールにおいて、第120回防災アカデミーを開催しました。

今回は、清水建設株式会社技術研究所安全安心技術センター長である金子美香氏による講演「地震による家具転倒被害とその対策」が行われ、約120名の参加がありました。金子氏は、地震時の家具の転倒一筋に研究してこられたそ



講演する金子氏

の道の第一人者です。

金子氏によれば、近年発生した地震の負傷理由の第一位は家具の転倒・落下によるとのこと。ガラスの散乱に繋がれば地震後の避難にも大きな支障をきたし、火災に繋がれば生活の継続すら困難になります。見せられた振動実験の映像から、家具を止めていない部屋では、地震の際に負傷どころか命の危険もあることがよく分かりました。地震対策はまず家具の固定から！出席者一同肝に命じました。

## 第121回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは6月3日(金)、減災館1階減災ホールにおいて、第121回防災アカデミーを開催しました。

今回は、井口正人京都大学防災研究所火山活動研究センター教授による講演「現代の視点で考える桜島大正噴火」が行われ、65名の参加がありました。井口氏は35年間桜島の観測を続けてこられた、いわば桜島のホームドクター



講演する井口氏

で、現在火山学会会長を勤めています。

1914(大正3)年に発生した桜島の大正噴火は、20世紀以降では我が国最大規模の噴火でした。その割に人的被害が少なかったのは人々が噴火の前兆におそれるをなして避難したことによるということです。東桜島小学校の「桜島爆発記念碑」には、「爆発は古来より続くもので今後も免れることはできない。異変を感じた時は未然に避難し、平常時から災害に遭っても路頭に迷うことがないように覚悟しておくべきである」というメッセージが刻まれています。自然災害の多い日本では、我々すべてが心すべき言葉であると感じました。

## 受賞者一覧

### 勲章関係等

受章日	受章名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H28. 4.29	瑞宝中綬章	名誉教授	赤松 宏	
H28. 4.29	瑞宝中綬章	名誉教授	池邊 幸正	
H28. 4.29	瑞宝中綬章	名誉教授	長田 雅喜	
H28. 4.29	瑞宝中綬章	元事務局長	渡橋 正博	
H28. 4.29	瑞宝中綬章	名誉教授	永井 美之	
H28. 4.29	瑞宝中綬章	名誉教授	中野 弘三	
H28. 4.29	紫綬褒章	理学研究科教授	篠原 久典	
H28. 4.29	紫綬褒章	生物機能開発利用研究センター教授	松岡 信	

### 教員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H27. 7.24	第47回日本医学教育学会大会 懸田賞	医学部附属病院講師	青松 棟吉	
H28. 1.12	日本機械学会フェロー	大学院工学研究科教授	梅原 徳次	
H28. 2.20	第21回(2016年)日本物理学会論文賞		OPERA Collaboration	中村光廣(未来材料・システム研究所教授)、佐藤 修(未来材料・システム研究所助教)、小松雅宏(教養教育院准教授)、中野敏行(大学院理学研究科講師)と連名
H28. 3.10	言語処理学会 第22回年次大会2016優秀賞	大学院工学研究科教授	佐藤 理史	夏目和子(大学院工学研究科技術補佐員)と連名
H28. 3.14	平成27年度(第33回)永井科学技術財団財団賞 学術賞	未来材料・システム研究所教授	大野 雄高	
H28. 3.14	平成27年度(第33回)永井科学技術財団財団賞 奨励賞	大学院工学研究科准教授	永野 修作	
H28. 3.16	平成27年度衝撃波シンポジウム Best Presentation Award	大学院工学研究科助教	松岡 健	笠原次郎(大学院工学研究科教授)、他4名と連名
H28. 3.19	第7回折戸周治賞	現象解析研究センター教授	飯嶋 徹	
H28. 3.19	応用物理学会 第6回化合物半導体エレクトロニクス業績賞	未来材料・システム研究所教授	天野 浩	
H28. 3.21	日本地理学会 2015年度日本地理学会賞(社会貢献部門)	減災連携研究センター教授	鈴木 康弘	他2名と連名
H28. 3.21	第20回久野 寧 記念賞	大学院医学系研究科助教	片岡 直也	
H28. 3.22	第10回(2016年)日本物理学会若手奨励賞	未来材料・システム研究所准教授	栞原 真人	
H28. 3.24	日本細菌学会 小林六造記念賞	大学院理学研究科准教授	小嶋 誠司	
H28. 3.25	第10回 PCCP Prize	大学院理学研究科助教	邨次 智	
H28. 3.26	日本化学会 第33回学術賞	トランスフォーマティブ生命分子研究所教授	山口 茂弘	
H28. 3.26	日本化学会 第65回進歩賞	トランスフォーマティブ生命分子研究所特任准教授	大松 亨介	
H28. 3.26	日本化学会 第4回女性化学者奨励賞	大学院工学研究科准教授	鳴瀧 彩絵	
H28. 3.26	平成28年度 日本薬学会 奨励賞	大学院創薬科学研究科講師	小坂田文隆	
H28. 3.28	第9回(2015年度)日本木材学会論文賞	大学院生命農学研究科准教授	今井 貴規	他3名と連名
H28. 3.28	第60回日本作物学会賞	大学院生命農学研究科教授	山内 章	
H28. 4. 1	第12回「画像診断」Best Invited Editor 賞	医学部附属病院病院准教授	田岡 俊昭	
H28. 4. 5	日本農学賞	生物機能開発利用研究センター教授	松岡 信	
H28. 4. 5	第53回読売農学賞	生物機能開発利用研究センター教授	松岡 信	



## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H28. 4. 6	The Japan Society of Applied Physics APEX/JJAP Editorial Contribution Award	大学院工学研究科准教授	中塚 理	
H28. 4. 6	The Japan Society of Applied Physics APEX/JJAP Editorial Contribution Award	大学院工学研究科教授	豊田 浩孝	
H28. 4. 6	The Japan Society of Applied Physics APEX/JJAP Editorial Contribution Award	大学院工学研究科教授	西澤 典彦	
H28. 4.12	JSPS CtC/Leverhulme Trust Joint Workshop, St. Andrews 2016 最優秀ポスター賞	物質科学国際研究センター 博士研究員	ウ ヤン	
H28. 4.13	日本化学会第96春季年会 優秀講演賞 (学術) (CSJ Presentation Award 2016)	大学院理学研究科助教	松井 公佑	
H28. 4.13	日本化学会第96春季年会 優秀講演賞 (学術) (CSJ Presentation Award 2016)	トランスフォーマティブ 生命分子研究所特任助教	南保 正和	
H28. 4.13	日本化学会第96春季年会 優秀講演賞 (学術) (CSJ Presentation Award 2016)	大学院工学研究科助教	安井 隆雄	
H28. 4.13	日本化学会第96春季年会 優秀講演賞 (学術) (CSJ Presentation Award 2016)	大学院工学研究科助教	廣戸 聡	
H28. 4.16	第7回丸山記念研究奨励賞	大学院工学研究科助教	廣戸 聡	
H28. 4.16	JJR Excellent Reviewer Award in 2015	大学院医学系研究科教授	長縄 慎二	
H28. 4.18	2015 Highly Cited Article in Journal of the Physical Society of Japan	大学院理学研究科准教授	小林 晃人	他4名と連名
H28. 4.18	日本機械学会 第15回機素潤滑設計部門奨励講演 表彰	大学院工学研究科助教	村島 基之	
H28. 4.20	文部科学大臣表彰 科学技術賞 (研究部門)	大学院工学研究科教授	馬場 嘉信	
H28. 4.20	平成28年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院理学研究科講師	北山 陽子	
H28. 4.20	平成28年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院理学研究科助教	清光 智美	
H28. 4.20	平成28年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院医学系研究科講師	和知野純一	
H28. 4.21	2015年度日本機械学会賞 (論文)	大学院工学研究科助教	飯盛 浩司	高橋 徹 (大学院工学研究科准教授)、 松本敏郎 (大学院工学研究科教授) と連名
H28. 4.21	日本機械学会計算力学部門 93期 (2015) 優秀講演賞	大学院工学研究科助教	塚田 祐貴	
H28. 4.23	船井情報科学振興財団 平成27年度第15回船井学術賞	大学院工学研究科准教授	加地 範匡	
H28. 4.23	海洋化学研究所 第31回海洋化学学術賞 (石橋賞)	大学院環境学研究科教授	角皆 潤	
H28. 4.25	平成27年度化学とマイクロ・ナノシステム学会 奨励賞	大学院工学研究科准教授	加地 範匡	
H28. 4.25	新技術開発財団 第48回市村学術賞 功績賞	大学院工学研究科准教授	竹岡 敬和	
H28. 4.26	Awards for Excellence – 2016; Outstanding Paper of International Journal for Lesson and Learning Studies	大学院教育発達科学研究科 准教授	サルカール アラニ・ モハメッド レザ	
H28. 5. 6	IEEE 学会貢献賞	大学院情報科学研究科教授	村瀬 洋	
H28. 5.11	平成27年度 整形災害外科研究助成財団 日本シグマックス奨励賞 (臨床的研究)	医学部附属病院医員	伊藤 研悠	今釜史郎 (医学部附属病院講師) と連名
H28. 5.13	日本病理学会学術奨励賞	大学院医学系研究科講師	岡崎 泰昌	
H28. 5.14	日本小児科学会学術研究賞	医学部附属病院講師	佐藤 義朗	
H28. 5.18	第51回 (平成27年度) 東海化学工業会賞 学術賞	大学院工学研究科准教授	清水 一憲	
H28. 5.18	第51回 (平成27年度) 東海化学工業会賞 学術賞	未来材料・システム研究所 助教	林 幸吉朗	
H28. 5.19	第28回日本ゴム協会賞	ナショナルコンポジットセ ンター教授	増渕 雄一	

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H28. 5.19	日本気象学会 2016年度岸保賞	名誉教授	上田 博	他2名と連名
H28. 5.20	天田財団 第14回助成研究成果発表会 優秀賞	大学院工学研究科准教授	湯川 伸樹	
H28. 5.24	日本地球惑星科学連合 2016年度日本地球惑星科学連合フェロー	名誉教授	安藤 雅孝	
H28. 5.26	第65回高分子学会賞	大学院工学研究科教授	浅沼 浩之	
H28. 5.26	第66回(2016年)自動車技術会賞 論文賞	大学院工学研究科助教	伊藤 大輔	水野幸治(大学院工学研究科教授)、他2名と連名
H28. 5.26	第57回藤原賞	大学院創薬科学研究科 特任教授	藤吉 好則	
H28. 5.26	腐食防食学会 貢献賞	未来材料・システム研究所 教授	興戸 正純	
H28. 5.27	新化学技術推進協会 第5回新化学技術研究奨励賞	大学院工学研究科准教授	鳴瀧 彩絵	
H28. 5.30	日本建築学会 2016年日本建築学会賞(論文)	大学院環境学研究科准教授	飯塚 悟	
H28. 5.30	第33回とやま賞	大学院教育発達科学研究科 准教授	清河 幸子	
H28. 6. 1	日本学士院エジンバラ公賞	生物機能開発利用研究 センター教授	松岡 信	
H28. 6. 1	第21回計算工学講演会 グラフィクスアワード特別賞(Meshman賞)	大学院工学研究科准教授	山本 佳士	伊佐治優(大学院工学研究科M2)、 中村 光(大学院工学研究科教授)、 三浦泰人(大学院工学研究科助教)と連名
H28. 6. 2	第15回グリーン・サステナブルケミストリー賞 文部科学大臣賞	大学院工学研究科教授	後藤 元信	
H28. 6. 3	第69回中目文化賞	大学院理学研究科教授	森 郁恵	
H28. 6. 4	Best Abstract Award, The 36th Annual Meeting of the Korean Society of Nephrology	大学院医学系研究科 客員研究者	佐藤 由香	
H28. 6. 8	第17回日本免震構造協会 技術賞	減災連携研究センター教授	福和 伸夫	他3名と連名
H28. 6. 8	高速道路調査会 平成27年度道路と交通論文賞(経済社会部門)	未来材料・システム研究所 准教授	三輪 富生	他1名と連名
H28. 6. 9	日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス 部門 ROBOMECH 表彰	未来社会創造機構教授	新井 史人	

## 学生

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H27. 5.22	日本機械学会 若手優秀講演フェロー賞	大学院工学研究科 M2	佐伯 直亮	
H27. 5.22	日本機械学会 若手優秀講演フェロー賞	大学院工学研究科 M2	佐々木 彰	大野信忠(大学院工学研究科教授)、 奥村 大(大学院工学研究科准教授)と 連名
H27. 5.22	日本機械学会 若手優秀講演フェロー賞	大学院工学研究科 M2	松下 幸平	大野信忠(大学院工学研究科教授)、 奥村 大(大学院工学研究科准教授)と 連名
H27.12. 1	名大応化会 博士学術賞	大学院工学研究科 D3	伊藤 覚	
H28. 1.15	電気学会 電力技術委員会 奨励賞	大学院工学研究科 D2	森田 圭	
H28. 1.29	第13回キャンパスベンチャーグランプリ中部 中部経済産業局長賞	大学院情報科学研究科 M1	松下 健	
H28. 2.26	Best Poster Award, The Seventh Augmented Human International Conference 2016	大学院情報科学研究科 M2	壁谷 勇磨	富安史陽(大学院情報科学研究科 D3)、 間瀬健二(大学院情報科学研究科教授)と 連名
H28. 3. 1	電気学会東海支部長賞	工学部 4年	大石 涼太	
H28. 3. 1	電気学会東海支部長賞	工学部 4年	横山 静香	

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H28. 3. 2	平成27年度データ解析コンペティション ID-POS データ部門 最優秀賞	大学院医学系研究科 M1	畠山 悠	橘川雄樹 (大学院情報科学研究科 M2)、 鄭 弘鎮 (大学院工学研究科 M1)、 遠山美穂 (大学院医学系研究科 M1)、 他 6 名と連名
H28. 3. 3	日本土壌肥料学会中部支部会第95回例会・ 中部土壌肥料研究会第105回例会 ポスター賞	大学院生命農学研究科 M2	前田 悠	
H28. 3. 7	電気学会 開閉保護技術委員会 開閉保護研究発表賞	大学院工学研究科 M2	川崎 雄平	
H28. 3. 9	自動車用内燃機関技術研究組合 2015年度 AICE Award 優秀研究発表賞	大学院工学研究科 M1	山下 大樹	
H28. 3.10	第12回キャンパスベンチャーグランプリ 全国大会 審査委員会特別賞	大学院情報科学研究科 M1	松下 健	
H28. 3.10	日本建築学会東海支部 学生優秀学術講演賞	大学院環境学研究科 M1	小川 浩太	
H28. 3.11	自動車技術会 大学院研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	馬飼野祐貴	
H28. 3.11	自動車技術会 大学院研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	陳 一唯	
H28. 3.14	日本セラミックス協会 2016年会 優秀ポスター賞優秀賞	理学部 4 年	帯刀 信吾	
H28. 3.14	化学工学会 第81年会 学生奨励賞	大学院工学研究科 M1	中島綾衣梨	
H28. 3.14	日本機械学会 若手優秀講演フェロー賞	大学院工学研究科 D1	小林 敬之	
H28. 3.14	電子情報通信学会 IE 賞	工学部 4 年	小林 優斗	斎藤豊大 (大学院工学研究科 M2)、 高橋桂太 (大学院工学研究科准教授)、 藤井俊彰 (大学院工学研究科教授) と連名
H28. 3.14	Best Paper Award, IEEE 6th International Conference on Photonics (ICP2016)	大学院工学研究科 M2	上田 恒	
H28. 3.15	第14回顕微ナノ材料科学研究会 最優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	藤井 裕也	柚原淳司 (大学院工学研究科准教授)、 曾田一雄 (大学院工学研究科教授)、 他 4 名と連名
H28. 3.15	化学工学会 第81年会 優秀学生賞	大学院創薬科学研究科 M2	吉田 啓	
H28. 3.15	スキルと実践を重視したビッグデータ・ イノベーション人材育成プログラム ビッグデータチャレンジ賞	大学院医学系研究科 M1	畠山 悠	橘川雄樹 (大学院情報科学研究科 M2)、 鄭 弘鎮 (大学院工学研究科 M1)、 遠山美穂 (大学院医学系研究科 M1)、 他 6 名と連名
H28. 3.16	2015 IEEE DEIS Japan Chapter Best Paper Presentation Award	大学院工学研究科 M1	尾崎 裕哉	
H28. 3.17	電気学会 優秀論文発表賞	大学院工学研究科 M2	高橋 達也	
H28. 3.17	日本機械学会東海支部賞 奨励賞	大学院工学研究科 D3	櫛田 陽平	
H28. 3.17	2015年電子情報通信学会総合大会 学術奨励賞	大学院工学研究科 D2	田中 裕也	
H28. 3.17	2015年電子情報通信学会ソサイエティ大会 学術奨励賞	大学院工学研究科 M2	上田 恒	
H28. 3.17	第 7 回日本複合材料合同会議 優秀講演賞	大学院工学研究科 M1	高橋 佑希	棚橋 満 (大学院工学研究科講師) と連名
H28. 3.20	日本物理学会 第 4 回 (2015年秋季大会) 学生プレゼンテーション賞	大学院理学研究科 D3	遠藤 友随	
H28. 3.21	日本地理学会 2015年度日本地理学会賞 (若手奨励部門)	大学院環境学研究科 D3	羽佐田紘大	
H28. 3.23	第93回日本生理学会大会 学生ポスター賞	大学院医学系研究科 D2	チョドリ スリカンタ	
H28. 3.25	日本音響学会東海支部優秀発表賞	大学院情報科学研究科 M2	林 知樹	
H28. 3.25	日本音響学会東海支部優秀発表賞	大学院情報科学研究科 M2	坪井 優幸	
H28. 3.25	名古屋大学 生物機能工学コース 学士論文発表会 優秀賞	工学部 4 年	辻 泰隆	
H28. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	水野 麻依	
H28. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	森本 一弘	
H28. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	高橋 恒太	



## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H28. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	長江 祐樹	
H28. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	間宮 文彦	
H28. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	野澤 遼	
H28. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	工学部 4年	辻 泰隆	
H28. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	工学部 4年	佐武 真有	
H28. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	工学部 4年	高橋 茂則	
H28. 3.25	第24回日本金属学会・日本鉄鋼協会 奨学賞	工学部 4年	石黒 雄也	
H28. 3.25	日本金属学会2016年春期講演大会 第26回優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	唐井 利賢	服部隆志 (大学院工学研究科 D1)、 小林克敏 (未来材料・システム研究所助教)、 小澤正邦 (未来材料・システム研究所教授) と連名
H28. 3.26	日本化学会 東海支部長賞	大学院理学研究科 M2	大島 豪	
H28. 3.26	日本化学会 東海支部長賞	理学部 4年	松岡 和	
H28. 3.26	日本化学会 東海支部長賞	理学部 4年	鈴木 和人	
H28. 3.26	日本化学会 東海支部長賞	理学部 4年	森本 恭輔	
H28. 3.29	第5回新日本法規財団奨励賞【会計・税制分野】 最優秀	大学院法学研究科 D1	本部 勝大	
H28. 4. 4	STAT DASH グランプリ2016 データ活用啓発部門 優秀賞	大学院医学系研究科 D2	藤井 亮輔	他1名と連名
H28. 4.13	日本化学会第96春季年会 (2016) 学生講演賞	大学院理学研究科 D3	鳴戸 真之	
H28. 4.13	日本化学会第96春季年会 (2016) 学生講演賞	大学院理学研究科 D3	藤川 鷹王	
H28. 4.13	日本化学会第96春季年会 (2016) 学生講演賞	大学院理学研究科 D3	近藤 寛起	
H28. 4.13	日本化学会第96春季年会 (2016) 学生講演賞	大学院理学研究科 D3	三原のぞみ	
H28. 4.13	日本化学会第96春季年会 (2016) 学生講演賞	大学院理学研究科 D3	浅井 健吾	
H28. 4.13	日本化学会第96春季年会 (2016) 学生講演賞	大学院工学研究科 D3	吉岡 謙	
H28. 4.13	日本化学会第96春季年会 (2016) 学生講演賞	大学院工学研究科 D3	杉岡 大輔	
H28. 4.13	日本化学会第96春季年会 (2016) 学生講演賞	大学院理学研究科 D2	吉村 柁彦	
H28. 4.13	日本化学会第96春季年会 (2016) 学生講演賞	大学院工学研究科 D2	横井 寛生	
H28. 4.17	第72回日本放射線技術学会総会学術大会 Excellent Student Awards	大学院医学系研究科 M1	中嶋 愛	
H28. 4.21	日本機械学会 奨励賞	大学院工学研究科 D3	伊藤啓太郎	
H28. 5.10	日本結晶成長学会 ナノエビ分科会 発表奨励賞	大学院工学研究科 D1	宇佐美茂佳	
H28. 5.14	第6回高エネルギー物理 春の学校 ポスター賞	大学院理学研究科 M1	川口 智美	
H28. 5.14	日本珪藻学会最優秀発表賞	大学院環境学研究科 D2	加藤 悠爾	
H28. 5.14	日本病理学会学部学生ポスター優秀賞	医学部 4年	太田 和樹	
H28. 5.14	日本病理学会学部学生ポスター優秀賞	医学部 4年	伊藤 理樹	
H28. 5.14	日本病理学会学部学生ポスター優秀賞	医学部 4年	尾崎航太郎	
H28. 5.14	日本病理学会学部学生ポスター優秀賞	医学部 4年	宗宮 大輝	
H28. 5.16	平成27年度土木学会中部支部研究発表会 優秀研究発表賞	大学院環境学研究科 M2	館 文人	
H28. 5.17	IOS Award, Informs Optimization Society Conference 2016	大学院工学研究科 D2	池端 信哉	中村 光 (大学院工学研究科教授) と連名
H28. 5.20	Best Student Oral Presentation Award, The 5th Advanced Lasers and Photon Sources Conference	大学院工学研究科 M2	寺西 達宏	
H28. 5.20	Best Student Oral Presentation Award, The 5th Advanced Lasers and Photon Sources Conference	大学院工学研究科 M2	佐藤 友哉	

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H28. 5.20	日本学術振興会 産学協力研究委員会 次世代の太陽光発電システム第175委員会 イノベティブ PV 奨励賞	大学院工学研究科 M2	市川 寛章	
H28. 5.26	ChemComm Poster Prize, The Royal Society of Chemistry	大学院工学研究科 M2	杉浦 航太	
H28. 5.28	分離技術会年会2016 学生賞	大学院工学研究科 M1	勝部 翼	神田英輝 (大学院工学研究科助教)、 後藤元信 (大学院工学研究科教授) と連名
H28. 5.31	都市住宅学会 学生論文コンテスト 卒業論文部門優秀賞	大学院環境学研究科 M1	齊藤 健太	
H28. 6. 3	電子情報通信学会 マルチメディア・仮想環境基礎研究専門委員会 MVE 賞	大学院情報科学研究科 M1	滝本 広樹	川西康友 (大学院情報科学研究科助教)、 井手一郎 (大学院情報科学研究科准教授)、 平山高嗣 (大学院情報科学研究科特任准教授)、 村瀬 洋 (大学院情報科学研究科教授)、 他 2 名と連名
H28. 6. 4	日本環境共生学会第18回 (2015年度) 学術大会 口頭発表 優秀発表賞	大学院環境学研究科 M2	山下 雄大	

\*受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時



本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成28年 5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
1 天野 浩未来材料・システム研究所教授らは基板上に窒化ガリウムの微小な針が並ぶ剣山のような発光素子を開発した	5.16 (月)	日経 (朝刊)
2 福和伸夫減災連携研究センター教授は熊本地震で緊急道の寸断が50カ所にのぼったことについて「緊急道は災害時に通行止めになっては困る道路で、是が非でも守る必要がある」と語る	5.16 (月)	毎日 (朝刊)
3 名古屋市と名古屋都市センターは耐震対策を考える緊急のシンポジウムを開き福和伸夫減災連携研究センター教授が講演で「建築基準法の基準は最低限で、連続地震を前提にしていない。議論が必要だ」と語る	5.16 (月)	毎日 (朝刊)
4 シンポジウム「これでいいのか? 名古屋城天守閣木造化と市民参加」開催:15日 田村哲樹法学研究科教授は名古屋市が木造復元を巡り行っている市民2万人アンケートなどについて「議論して考える契機がなく、行政が意見を見直す可能性が低い」と語る	5.16 (月)	毎日 (朝刊)
5 名古屋小児がん基金設立記念講演会開催:22日 野依記念学術交流館で行われる	5.17 (火)	中日 (朝刊)
6 緩和ケアスタッフ人材育成セミナー開催6月25、26日 大幸キャンパス本館1階多目的室で行われる	5.17 (火)	中日 (朝刊)
7 アートトリップ:20の点と10の直線 フェリーチェ・ヴァリーニ作 大胆キャンパスアート 全学教育棟 松浦和音さん 本学学生は「大胆なのに違和感がないですね」と語る	5.17 (火)	朝日 (夕刊)
8 第22回博物館特別展「モンゴル大百科」開催:4月19日～8月27日	5.17 (火) 5.24 (火) 6.14 (火)	朝日 (夕刊) 朝日 (夕刊) 朝日 (夕刊)
9 本学と防衛医科大学校、久留米大学、国立遺伝子学研究所などは共同で、酵素「2型アルデヒド脱水素酵素」を作る遺伝子の個人差が、痛風の発症に関与していることを発見した	5.18 (水)	中日 (朝刊)
10 菅 なな子さん経済学部2年生が所属していたアイドルグループSKEを卒業してから本学に合格するまでの体験談をまとめた書籍「アイドル受験戦記」を出版	5.18 (水)	朝日 (夕刊)
11 第15回 GSC 賞文部科学大臣賞:後藤元信工学研究科教授	5.18 (水)	化学工業日報
12 新井史人未来社会創造機構教授と佐久間臣耶工学研究科助教らの研究グループは卵子の硬さを直接測るデバイスを開発	5.19 (木)	日刊工業
13 本学と物質・材料研究機構が連携大学院協定を締結した	5.19 (木)	日刊工業
14 本学が情報学部を設置するなど、文部科学省は主要国立大学を対象に数理・情報分野の教育・研究の強化に乗り出した	5.19 (木)	日刊工業
15 18歳のライブ:参院選「投票行く」鈴木颯裕さん本学学生は「選挙のことは友人と話題になる」と語り、伊藤菜々さん法学部生は「地域に根付いた活動をしている人を選びたい」と語り、海田祥宏さん経済学部生は「分からないまま投票して後悔したくない」と語る	5.19 (木)	読売
16 山岡耕春環境学研究科教授は九州内陸で地震が頻発するのとほぼ同時期に、宮崎県沖の日向灘で大きな地震が起きていたとする過去の地震の分析結果を報告	5.20 (金)	毎日 (朝刊)
17 連続地震への備え:軟弱地盤「震度7も」活断層周辺で地盤の悪い地域と南海トラフ近くの沿岸は震度7の地震が連続する可能性がある 山岡耕春環境学研究科教授	5.20 (金)	読売
18 就活前倒し 留学生困惑「留年を覚悟」「切り上げ帰国」坂井伸彰運営支援組織特任講師は「学生に『1人で悩まないで』というメッセージを送る意味でも積極的に情報発信していきたい」と語る	5.20 (金)	朝日 (夕刊)
19 中日文化センター 開講50周年記念企画「世界を照らすLED」開催:7月21日 天野 浩未来材料・システム研究所教授が講演	5.20 (金)	中日 (夕刊)
20 紙つぶて:砂場の数学 四方義啓本学名誉教授	5.21 (土)	中日 (夕刊)
21 竹本大吾生命農学研究科准教授と柴田裕介学術研究・産学官連携推進本部リサーチ・アドミニストレーターなどのグループはジャガイモ疫病菌を撃退する抗菌物質が植物内部でつくられ、菌を攻撃するために輸送される仕組みを解明	5.22 (日)	中日 (朝刊)
22 老年内科 役割多様に 身体の虚弱化に対応/在宅患者や特養訪問 葛谷雅文医学系研究科教授は「日常生活機能や認知機能低下、摂食・えん下障害、排泄障害の四大障害を同時に起こしている患者も少なくない」と語る	5.22 (日)	日経 (朝刊)
23 連鎖地震浮かぶ課題①:「次」への警戒、解けず 断層に割れ残り 動きの予測困難 山岡耕春環境学研究科教授は日向灘について「注意が必要だ」と語る	5.23 (月)	日経 (朝刊)
24 名古屋小児がん基金:22日 基金理事長小島勢二本学名誉教授が「新しい診断法や治療法の開発が基金の目指すところ、今後の使い方が重要になる」と語る	5.23 (月)	中日 (朝刊)
25 益川敏英本学特別教授が米国オバマ大統領の広島訪問について「大統領任期も終わりが近づき、平和の問題で業績を残したかった」と語る	5.24 (火)	中日 (朝刊)
26 鷺谷 威減災連携研究センター教授は海上保安庁が作製した南海トラフ周辺のひずみ分布図について「陸からの分析では分からなかった部分を明らかにした意義は大きい」と語る	5.24 (火)	朝日 (朝刊)
27 レーザー:科学技術振興機構理事長濱口道成前総長は「修士課程の学生を含む若手研究者向けのプログラムを始める。35歳以上は対象にしない」と語る	5.24 (火)	日刊工業
28 日本化学会の新会長に山本 尚本学名誉教授が就任	5.25 (水)	中日 (夕刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成28年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
29 福和伸夫減災連携研究センター教授などをメンバーとしたワーキンググループを豊橋市が作り、市の防災・減災体制、計画の検討を始める	5.26 (木)	読売
30 藤原科学財団 第57回藤原賞：藤吉好則創薬科学研究科特任教授「膜たんぱく質の構造と機能研究」	5.26 (木) 5.28 (土) 6. 3 (金)	読売 読売 日刊工業
31 伊勢志摩サミット開催記念《中部の輝く女性》サミット開催：23日 東村副理事・生命農学研究科教授が基調講演 多様性を認め合い、自己実現できる社会を	5.26 (木)	中日 (朝刊)
32 読売テクノフォーラム 研究交流会：伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授が講演	5.26 (木)	読売
33 がんとともに働く人のための講座開催：6月11日 鶴友会館で行われる	5.26 (木) 6.10 (金) 6.12 (日)	読売 中日 (朝刊) 読売
34 古谷将彦生命農学研究科研究員らのグループは植物のホルモン「オーキシン」が発根を促進するメカニズムを解明	5.27 (金)	中日 (朝刊)
35 ひまわり EYE：暴れる雲群に規則性 増永浩彦宇宙地球環境研究所准教授は「マッデン・ジュリアン振動の解明に向けてひまわり8号は新たな道をひらいてくれるだろう」と語る	5.27 (金)	毎日 (朝刊)
36 伊勢志摩サミット 拡大会合レセプション：天野 浩未来材料・システム研究所教授も参加	5.27 (金)	読売
37 紙つぶて：梅雨と勤勉 四方義啓本学名誉教授	5.28 (土)	中日 (夕刊)
38 村上正隆宇宙地球環境研究所特任教授らがアラブ首長国連邦の第1回の研究助成対象に選ばれ、人工降雨の実用化へ向けた技術を研究する	5.29 (日)	中日 (朝刊)
39 家族のこと話そう：エジプト考古学者 河江肖刺文学研究科研究員 親の支えで「わが道」に	5.29 (日)	中日 (朝刊)
40 柴田 玲医学系研究科寄附講座准教授らは皮下脂肪の幹細胞を手足に移植して難病の治療を行う臨床試験を患者4名に実施	5.30 (月)	中日 (朝刊)
41 木村理事らが中日新聞社を訪れ本学の熊本地震災義援金340万円を寄託した	5.31 (火)	中日 (朝刊)
42 柳野正人医学系研究科教授がシンバイオティクスの効果について「多くの施設でシンバイオティクスの効果が科学的に証明され、ほかの大学病院などでも取り入れるようになってきた」と語る	5.31 (火)	中日 (朝刊)
43 本学なども実証実験に加わり、愛知県が6月にも県内15市町の公道で自動運転の実証実験を始めると発表	5.31 (火)	毎日 (朝刊)
44 筋萎縮性側索硬化症講演会：6月5日 祖父江 元医学系研究科特任教授が講演	5.31 (火)	中日 (朝刊)
45 博物館特別講演会「モンゴルの恐竜の姿勢と生態」開催：6月11日 藤原慎一博物館助教が講演	5.31 (火)	中日 (朝刊)
46 この人：日本化学会の新会長に就任した山本 尚本学名誉教授	5.31 (火)	中日 (朝刊)
47 熊本日日新聞記者池田祐介氏本学卒業生が熊本地震で震度7を二度観測した同県益城町の取材を続けている	5.31 (火)	中日 (夕刊)
48 あま市は市内の展示施設「七宝焼アートヴィレッジ」の屋外敷地を、自動運転技術の実験場所として本学などに貸し出す	6. 1 (水)	中日 (朝刊)
49 森 重文本学特別教授らをコーディネーターとして京都大学と中部大学が新たな学問分野づくりを目指し連携協定を結ぶ	6. 1 (水) 6. 3 (金)	中日 (朝刊) 中日 (朝刊)
50 名古屋市長政土木局広報担当職員和田 勉氏本学卒業生が「ローリングストック法」という非常食を忘れずに賞味期限前に食べて更新するのをPRする曲を作った	6. 1 (水)	中日 (朝刊)
51 山本 尚本学名誉教授が会長を務める日本化学会は6月中旬に小中高生を対象とする「中高生会員」制度を新設し、化学の早期教育を始める	6. 2 (木)	日刊工業
52 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生は消費増税の先送りについて「経済界としては今回の決定を尊重したい」と語る	6. 2 (木)	毎日 (朝刊)
53 門脇誠二博物館講師は古代家畜ヤギのDNA系統の解析に成功	6. 3 (金)	中日 (朝刊)
54 第26回理学懇話会開催：4日 山口茂弘トランスフォーマティブ生命分子研究所教授、菱川明栄物質科学国際研究センター教授が講演	6. 3 (金)	中日 (朝刊)
55 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生が就任3年目に入り「政治と経済が車の両輪として連携をさらに強化したい」と語る	6. 3 (金)	中部経済
56 デジタル・ストーリーテリング 日常の物語をメディア作品化 連帯探る社会運動に 小川明子国際言語文化研究科准教授	6. 3 (金)	中日 (夕刊)
57 第69回中日文化賞贈呈式：3日 森 郁恵理学研究科教授 神経回路の情報処理機構に関する研究	6. 3 (金) 6. 4 (土)	中日 (夕刊) 中日 (朝刊)
58 中日新聞社創業130周年記念シンポジウム「ノーベル賞受賞者と語る宇宙と物質の謎」開催：3日 パネルディスカッションに益川敏英本学特別教授が参加し、杉山 直理学研究科教授がコーディネーターを務めた	6. 4 (土) 6.15 (水)	中日 (朝刊) 中日 (朝刊)
59 経済サブリ：進む企業の農業参入 難所乗り越え新風を 生源寺真一生命農学研究科教授	6. 4 (土)	中部経済
60 紙つぶて：誤差の感覚 四方義啓本学名誉教授	6. 4 (土)	中日 (夕刊)
61 先端人：認知心理学 ヒトの心「本性」に迫る 川合伸幸情報科学研究科准教授	6. 5 (日)	朝日 (朝刊)



本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成28年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
62 滅災館の来館者が3日、3万人に達し福和伸夫滅災連携研究センター教授は「市民一人ひとりの行動につながるような場づくりをしていきたい」と語る	6. 5 (日)	朝日 (朝刊)
63 病院の実力：子どもの心臓病 本学の治療実績が取り上げられる	6. 5 (日)	読売
64 学生団体有志「若者×未来プロジェクト」に所属する本学学生が名大祭のイベントとして模擬投票を行った	6. 5 (日)	中日 (朝刊) 他2社
65 本学発ベンチャーフォトエレクトロソウルが高精度で照射する電子ビームを開発し本学が持つ「半導体フォトカソード技術」を事業化	6. 6 (月)	日経 (朝刊)
66 キラリ研究開発 第193回モノづくりと未来のエネルギー名古屋大学プラズマ科学プラットフォーム (2)：堀 勝未来社会創造機構教授、大野哲靖工学研究科教授	6. 6 (月)	日刊工業
67 ひゅ～まん愛知：常識変わる成果 発信 組み体操の危険性指摘 内田 良教育発達科学研究科准教授	6. 6 (月)	読売
68 東京から広島まで行進する「国民平和行進」が名古屋市内で行われ、主催者のあいち平和行進共同連絡会代表 沢田昭二氏本学名誉教授が「広範囲の人が結集し、この勢いを大きくすれば、平和な未来をつくる力につながる」と語る	6. 6 (月)	毎日 (朝刊)
69 本学や名古屋市立大学、愛知医科大学、藤田保健衛生大学の小児科医らが「愛知未診断疾患プロジェクト」を設立し、初会合が開かれた	6. 7 (火)	中日 (朝刊)
70 この人：理系と文系のはざまを研究 隠岐さや香経済学研究科教授	6. 7 (火)	中日 (朝刊)
71 医人伝：愛知工業大学石垣尚男氏 教員をしながら本学医学部の研究生になり博士号を取得	6. 7 (火)	中日 (朝刊)
72 第69回中日文化賞 祝賀会：森 郁恵理学研究科教授は「ますますやっつこうと思う矢先に名誉な受賞になった。これを励みに取り組みたい」と語る	6. 8 (水)	中日 (朝刊)
73 人事が見る大学イメージランキング：総合ランキング 3位 名古屋大学 (昨年26位から急浮上)	6. 8 (水)	日経 (朝刊)
74 医学部附属病院は混合診療の拡大策として4月から始まった「患者申し出療養」制度で、相談窓口を設置	6. 8 (水) 6.14 (火)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
75 大村秀章愛知県知事は医療ツーリズムの推進に乗り出し「あいち医療ツーリズム研究会」を発足させ本学など医学部のある四大学などと研究会を発足させた	6. 8 (水)	毎日 (朝刊)
76 小田裕昭生命農学研究科准教授らの研究グループがインターネットで身長や体重、健康診断結果を打ち込むと一日の食事を取るべき栄養素の基準量が自動表示されるシステムを開発し公開した	6. 8 (水) 6. 9 (木)	毎日 (夕刊) 中部経済
77 本学は「教員1人の時間当たりの経費単価」を基本にした算定方式を思案するなど、研究大学で間接経費の算定方式の見直しの検討が進んでいる	6. 9 (木)	日刊工業
78 後 房雄法学研究科教授が二大政党制の意義と着目すべき点について解説	6. 9 (木)	中日 (朝刊)
79 来年8月に行われるNIE全国大会名古屋大会の記念講演を天野 浩未来材料・システム研究所教授が行うことが決まった	6. 9 (木)	読売 中日 (朝刊)
80 市民公開講座「進歩する肺がん治療」開催：17日 パネルディスカッション コーディネーター 長谷川好規医学系研究科教授、パネリスト 横井香平医学系研究科教授、岡田 徹医学部附属病院助教	6. 9 (木)	中日 (朝刊)
81 理化学研究所などが初めて命名権を獲得した原子番号113番を国際純正・応用科学連合が新元素「ニホニウム」と発表したことについて、野依良治本学特別教授は「子供たちは元素名を見るたび日本人の力に誇りを感じるだろう」と語る	6. 9 (木)	読売
82 理化学研究所などが初めて命名権を獲得した原子番号113番を国際純正・応用化学連合が新元素「ニホニウム」と発表したことについて、巽 和行物質科学国際研究センター特任教授は「日本生まれの元素が刻まれた周期表は、化学を学ぶ日本の中高生に大きな刺激を与える」と語る	6. 9 (木)	毎日 (朝刊)
83 2016参院選：18歳選挙権 名大留学生らに聞く オルファン・エレンさん本学留学生は「日本人は自分の考えを言わない慣習があるのだろうか。もっと自分達の意見を発信すべきだ」と語る	6. 9 (木)	日経 (夕刊)
84 一語一会：作家・椋山女学園大学教授堀田あけみ氏本学卒業生 故村上英二本学元教授からの言葉	6. 9 (木)	朝日 (夕刊)
85 藤井 努医学系研究科准教授などのグループは隣頭がんの切除手術の前に放射線照射と抗がん剤使用を併用する化学放射線治療を行った方が、手術だけの場合に比べ、2年後の生存率が2～3倍高いことが分かったと発表	6.10 (金)	中日 (朝刊)
86 本学などが自動運転の実証実験を愛知県内の15市町の公道で始める	6.10 (金)	中日 (朝刊)
87 人類VS耐性菌 終わらぬ闘い 荒川宜親医学系研究科教授は「医療現場と畜水産の両方で、必要性を見際め、無用な薬は控えるべきだ」と語る	6.10 (金)	日経 (朝刊)
88 住友財団は新代表理事に野依良治本学特別教授を選任	6.10 (金)	日刊工業
89 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生は「リニアの早期延伸は関西だけでなく、東京、名古屋の3都市が新しい形をつくる原動力になる」と語る	6.10 (金)	毎日 (朝刊)
90 東海近世文学会：11日 劉菲菲文学研究科博士研究員が発表	6.10 (金)	中日 (夕刊)
91 博物館玄関ホールで日本地質学会が選定した愛知県の石の「松脂岩」「カオリン」「師崎層群の中期中新世海生化石群」の3種類が展示されており大路樹生博物館教授は「石を通じて地域の成り立ちに思いをさせてもらえれば」と語る	6.11 (土)	中日 (朝刊)

記事	月日	新聞等名
92 紙つづて：創造性の肥やし 四方義啓本学名誉教授	6.11 (土)	中日 (夕刊)
93 未来へ 2016参院選あいち：水谷研治本学客員教授は「国民は目先だけでなく日本の将来を考えるべきだ」と語る	6.11 (土)	中日 (朝刊)
94 遠距離家族子育て編：子連れ転勤「短期間なら」理化学研究所坂内博子氏元本学特任講師は「家族バラバラの生活は、短期間だから考えられる選択肢。永遠に続けるのは勧めない」と語る	6.12 (日)	毎日 (朝刊)
95 医学系研究科は「明日の医療の質向上をリードする医師養成プログラム (ASUISHI)」のシンポジウムを開いた	6.14 (火)	中部経済
96 内田 良教育発達科学研究科准教授は文部科学省などが部活動の休養日を設けることなどを柱とした報告書をまとめことについて「現場が実行に移しやすい施策を打ち出すことが必要だ」と語る	6.14 (火)	毎日 (朝刊)
97 基礎研究の魅力 若者へ 本学も1年生から複数の基礎の研究室をまわる「ラボツアー」を導入するなど基礎研究の魅力を学生に伝える試みを実施	6.14 (火)	中日 (朝刊)
98 18歳選挙権啓発推進大会：12日 小野耕二本学名誉教授が「18歳選挙権の実現に際して」と題し講演	6.14 (火)	読売

## イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容	
<b>4月19日(火)～8月27日(土)</b> 場 所：博物館2階展示室 時 間：10:00～16:00 休 館 日：日・月曜日、8月13日～16日 入 場 料：無料  [問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767	<b>第22回博物館特別展</b> <b>「モンゴル大百科－ Mongolian Natural History －」</b>  [関連特別講演会] 8月6日(土) 場 所：博物館3階講義室 時 間：10:30～12:00 講演題目：「太古の生物大進化」、「モンゴルの地質と鉱床」 講 演 者：大路樹生 (博物館教授)、苗村康輔 (同特任助教) 参 加 費：無料	
<b>4月25日(月)～7月29日(金)</b> 場 所：博物館野外観察園 セミナーハウス2階 時 間：10:00～16:00 休 館 日：土・日・祝日 入 場 料：無料  [問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767	<b>博物館野外観察園セミナーハウスサテライト展示</b> <b>「名大の蛾 II. 春～夏の蛾」</b>	
<b>6月10日(金)～9月30日(金)</b> 場 所：附属図書館医学部分館 2階入口ホール 時 間：9:00～20:00 (平日) (8/8～9/30は9:00～17:00)、 13:00～17:00 (土曜日) 休 館 日：日・祝日、 8月13日～9月24日の土曜日、 8月15日、16日、25日～31日 入 場 料：無料  [問い合わせ先] 附属図書館医学部分館 052-744-2505	<b>附属図書館医学部分館ミニ展示会</b> <b>「戦争と大学 ふたたび－軍医と銃後－」</b>  内 容：1931年の満州事変以降、戦争が拡大していくにつれて軍医として召集される医師が増え帝国大学等に臨時附属医学専門部が設置された。銃後 (直接戦闘に加わっていない一般国民) も、何らかの形で戦争に参加していくことになった時代の軍医と銃後に関する史料を展示公開する  [関連特別講演会] 9月30日(金) 場 所：医学部基礎研究棟1階会議室2 時 間：15:00～16:30 講演題目：「第二次世界大戦中の赤十字と名古屋大学」 講 演 者：大川四郎氏 (愛知大学教授)	

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

7月23日(土)～8月31日(水)

場 所：愛知県全域および岐阜・三重県の一部（大学や科学館の各会場）  
対 象：主に小学生以上、高校生

夏休みあいちサイエンスフェスティバル2016

内 容：あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークと協力し、サイエンスやものづくりを楽しむ子ども向けイベントを各種開催



[問い合わせ先]

学術研究・産学官連携推進本部  
主任リサーチ・アドミニストレーター  
成 玖美 052-747-6527

7月27日(水)

場 所：理学南館 1階坂田・平田ホール  
時 間：13:30～17:00  
定 員：300名  
参 加 費：無料（意見交換会は3,000円）

第17回大学施設マネジメント研究会  
「キャンパスマスタープランの新たな展開  
ー中長期マネジメントに向けてー」

講演題目：「名古屋大学のキャンパスマスタープラン」  
講 演 者：太幡英亮（工学研究科准教授）、小松幸雄（施設管理部長）  
講演題目：「立命館大学のキャンパスマスタープラン」  
講 演 者：及川清昭氏（立命館大学教授）、  
武田史朗氏（同准教授）、  
大藪康成氏（同総合企画部総合企画課）

内 容：講演、パネルディスカッション



[問い合わせ先]

工学部施設整備推進室 052-789-3742

7月30日(土)、31日(日)

場 所：文系総合館 7階  
カンファレンスホール  
時 間：9:50～（7/30）、  
10:00～（7/31）  
対 象：一般  
参 加 費：無料

文学研究科附属「アジアの中の日本文化」  
研究センター 国際シンポジウム  
「文化に媒介された環境問題  
ー東アジア関係学のエコロジー的探究」

内 容：アントロポセンー自然に対する人間の複雑な媒介ーと言われる時代の地球規模のエコロジー的連関を東アジアの視点からどう考えられるのか（日本語ー英語同時通訳）



[問い合わせ先]

文学研究科附属「アジアの中の日本文化」  
研究センター 教授 藤木秀朗  
hfuj@lit.nagoya-u.ac.jp

7月30日(土)

場 所：理学南館 1階坂田・平田ホール  
時 間：13:00～16:00  
定 員：200名  
対 象：一般  
参 加 費：無料

宇宙地球環境研究所公開講演会「嵐を測る」

講演題目：「ゲリラ豪雨を測る」  
講 演 者：牛尾知雄氏（大阪大学准教授）  
講演題目：「世界の雨」  
講 演 者：井口俊夫氏（情報通信研究機構フェロー）  
講演題目：「ジオスペースの嵐」  
講 演 者：三好由純（宇宙地球環境研究所准教授）  
講演題目：「過去の太陽嵐を探る」  
講 演 者：三宅美沙（同特任助教）

内 容：私たちの日常生活において大きな影響をあたえる様々な災害について「嵐」をキーワードに当研究所の特色を活かして講演する



[問い合わせ先]

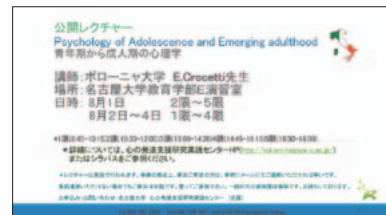
研究所事務部総務課 052-747-6303

8月1日(月)～4日(木)

場 所：教育学部 E 演習室  
時 間：10:30～18:00 (8/1)、  
8:45～16:15 (8/2～4)  
対 象：一般  
参 加 費：無料

心の発達支援研究センター  
公開レクチャー

講演題目：「青年期から成人期の心理学」  
講 演 者：E. Crocetti 氏（ポロニヤ大学）



[問い合わせ先]

心の発達支援研究実践センター  
052-789-2658



## イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月7日(日)

場 所：教育学部 2階大講義室

時 間：15:00～17:00

対 象：一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

心の発達支援研究実践センター

第1プロジェクト室

hattatsushien@educa.nagoya-u.ac.jp

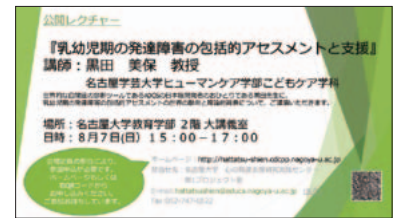
### 心の発達支援研究センター

#### 公開レクチャー

講演題目：「乳幼児期の発達障害の包括的アセスメントと支援」

講演者：黒田美保氏（名古屋学芸大学教授）

内 容：乳幼児期の発達障害の包括的アセスメントの世界的動向と理論的背景について講演する



8月8日(月)

場 所：豊田講堂中2階ギャラリー、  
3階第1会議室

時 間：13:00～15:20

対 象：中学生・高校生および保護者、  
学生、教員、他

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

総務部職員課

kyodo-sankaku@adm.nagoya-u.ac.jp

### 若手女性研究者サイエンスフォーラム、 女子中高生理系進学推進セミナー

講演題目：「プラズマをつくる・プラズマでつくる」

講演者：鈴木陽香（工学研究科助教）

講演題目：「食糧生産を支える作物の根  
—イネを育て、子を育て、私のワークライフバランス—」

講演者：仲田（狩野）麻奈（生命農学研究科特任助教）

内 容：講演、ポスターガイダンス（中高生対象）、  
ポスターセッション、授賞式、他



8月30日(火)～10月27日(木)

(期間内の火・木曜日)

場 所：ES 総合館 1階 ES ホール、  
IB 電子情報館 1階 IB015講義室

時 間：18:00～19:30

定 員：200名

対 象：一般（満18歳以上）

参 加 費：9,460円（全15回）

[問い合わせ先]

研究協力部社会連携課 052-747-6584

### 平成28年度名古屋大学公開講座

テ ー マ：「個と集団—ネットワークの様々な様相」

## 表紙サークル紹介



表紙

演武会（合気道部）

（平成28年6月5日）

## 合気道部

合気道とは筋力や体格に頼らない武道です。相手が加えてくる力や人体構造を利用して崩し倒します。『争わない武道』といわれるように試合は行わず、勝敗から離れたところで技の上達を目指すという精神的な面も併せて持っています。

大学から合気道を始めた部員ばかりですが、月一回の先生の稽古を元に日々稽古に励んでいます。試合を行わないため年二回の演武会を成果の発表の場としています。

名大トピックス No.278 平成28年7月15日発行

編集・発行／名古屋大学総務部広報渉外課

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。

名古屋市千種区不老町（〒464-8601） TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ（<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/publication/index.html>）でもご覧いただけます。

## 171 50年前の名大祭 — 名大祭いまむかし① —

本号で詳しく報じられていますように、今年も第57回名大祭が盛大に開催されました。今回は、50年前の名大祭を、現在と比べながら紹介しようと思います。

1966（昭和41）年の第7回名大祭は、本祭典としては6月9日（木）から12日（日）の4日間にわたって行われました。これは現在の3日半とあまり変わりませんが、大きく異なるのは事前企画の充実ぶりです。

現在は、仮装行列と2時間半程度のゲーム大会くらいですが、この年は5月2～7日、5月30日～6月6日の「プレシンポジウム週間」、5月22日の丸1日をかけての運動会、5月29日の仮装行列、6月7日の前夜祭、6月8日の学部シンポジウムと、まるで1ヵ月前前から名大祭が始まっているような雰囲気でした。この背景には、名大祭にともなう休講日を増やしたい学生側と、それに消極的な大学側とのせめぎ合いがあったようです。

この年のテーマは、「築こう平和と真理のとりでを 嵐

の中のアジア・祖国日本 深まりゆく大学の危機について 僕ら連帯の輪をさらに広げよう」でした。実はさらに副題もあるこの力のこもったテーマは、当時の名大祭を象徴しているともいえます。純粋な娯楽企画は少なく、多くはシンポジウムや講演会、討論会、展示会、演劇会などを通じた、現代的な課題に取り組む企画でした。名大祭は、広い意味での学生運動の発露の場として始まった側面を強く持っていますが、その性格をいまだ色濃く受け継いでいた時期です。

もともと、学生たちの娯楽への関心が弱かったわけではなく、娯楽企画が少ないがゆえかかもしれませんが、前夜祭には約3千人が集まったと新聞が報じています。事前企画としての運動会も、当時の学生たちには貴重な娯楽であったものと思われます。そのほか、本祭典の土曜日と日曜日にも、それぞれ丸1日かけた体育会（スポーツ大会）が開催されています。



1	2	3
5	4	

- 1 第7回名大祭のパンフレットの表紙。本祭典以外の、仮装行列や運動会、前夜祭などの期日も明記されている。
- 2 50年前の『名大祭ニュース』（1966年6月7日号外、第7回名大祭情宣部発行）。
- 3 第6回名大祭の仮装行列。この年は、白川公園を発着点とし、広小路本町から広小路通を通して栄町、大津通を通して矢場町という、現在と似たコース（現在とは逆回り）であった。
- 4 第7回名大祭のパンフレットに掲載されている模擬店の写真。しかし、模擬店については3分の1頁しか紙面が割かれておらず、扱いは小さい。
- 5 当時の名大本部（学生部）が作成した、第7回名大祭の簿冊（大学文書資料室所蔵）。